茨城県産魚類の方言について（第2報）

浅野長雄*・藤本　武

I　緒　　言

筆者等[1]はさきに「茨城県産魚類の方言について第1報」として県内各地における方言を各種類ごとにとりまとめて報告した。

本編は各地において採集した方言とともに，その「いわれ」（意味）について聞きとりを行なったものである。不明のもの，または他府県と同じものについては各氏の報告と比較した。とりまとめに当っては分類順に各種類ごとに「いわれ」を配列し，次にその形成過程と類型化についてとりまとめを行なった。全県内の方言を網羅するにはなお長期間を要するので，それらについては次の機会に報告する。本研究を発表するに当り魚類方言の採集と「いわれ」の形成の聞きとりについて御協力をいただいた多くの漁業者の方々と各漁業協同組合の職員の方々に厚くお礼申し上げる。

II　魚類方言の意味

方言の意味は，各種の辞典，魚類方言集，各地の方言を参考とし，その意味を考察した。方言の意味の解明に当っては，標準和名，魚種の分布範囲，最大体長，漁獲量の多少，方言の分布についても触れた。

魚類の分布については，田中茂穂博士の説に従って，次の三つに区分した。

N：　太平洋岸では犬吠崎以北，日本海岸では島根県西部以北に分布する魚類

S：　太平洋岸では犬吠崎以南，日本海岸では島根県西部以南に分布する魚類

NS：　N，Sの両海区のいずれにも分布する魚類

数量については，筆者等の見聞と漁獲統計を参考にして，次の五階級に分けた。

rr　まれ

r　少ない

＋　普通

c　多い

cc　最も多い

Dist. は分布，B. L. は最大体長を示した。

1　クロメクラウナギ　S(r)

Dist. 茨城県～高知県

B. L.　60cm

スボ（水木・河原子・川尻）

長崎県平戸では小鰻をスボと言い，佐賀県有明海ではワラスボをスボと言っている。ワラスボは泥

*　茨城県立那珂湊水産高等学校

地に潜生するハゼ科の魚類で鰻形をなし，大きなものでも体長１８０㎜にすぎない。眼は小さく，皮下に埋没してほとんど盲である。スボはワラスボの略で，ワラスボはワラシベ，ワラスベの意味で，きわめて細長い形態のものを表わしている。クロメクラウナギは深海産の魚類で，眼は退化して，ほとんど用をなさない。形はウナギ形である。しかしワラシベ（楷）のごとく細くはない。この方言のスボはワラスボより出たものであろう。底延縄で漁獲される。

2　メクラウナギ　S(+)

Dist. 相模灘・茨城県川尻

B. L.　５０cm

スボ（川尻）

福島県小名浜ではヌタウナギをスボと言う。本県でも福島県でもヌタウナギ科とメクラウナギ科の魚類をいずれもスボと称している。

3　スナヤツメ　NS(r)

Dist. 陸封性，太平洋および日本海に注ぐ各河川（宮崎県・高知県・鹿児島県の大部分を除く），北海道・カラフト・千島・沿海州・朝鮮（吉州茂山）。本県では霞ケ浦・涸沼に注ぐ小河川に生息する。

B. L.　１２cm

ヤツメ（涸沼）

ヤツメは八目の意で，眼と眼の後方にあるえらあな７個が眼のようにならんでいるところから，このように言う。土佐仁淀川・越知町でも言う。標準和名は砂質の川底にすむヤツメの意で，八田博士が岐阜・信州松本の方言を採用，命名したものである。

4　カワヤツメ　N(rr)

Dist. 走海性，太平洋では利根川以北，日本海岸では島根県以北の河へさかのぼる。北海道・カラフト・朝鮮・本県では北浦・涸沼・那珂川に分布する。

B. L.　５０cm

ヤツメ（北浦・涸沼・那珂湊）・メガネウナギ（友部）

高知県長岡郡本山町・富山県富山でもヤツメと言う。メガネウナギは八目の形態がメガネをかけたようであるのでかく言う。標準和名は八田博士の命名である。

5　エドアブラザメ　S(r)

Dist. 茨城県から高知沖に至る２００尋前後の深海底・オーストラリヤ・地中海を含む太西洋両沿岸・Cape of Good Hope など。

B. L.　2m

コロサメ（―）・サガ（水戸）・ダイギリサガ（水戸）・ハリサガ（水戸）・ホシサガ（水戸）・ホシザメ（水戸）

コロサメの意味不明。サガはサメを意味し，細長い魚のことである。山形県ではサガボウと言う。

ボウは愛称である。ダイギリは大のこぎりで，このサメの形が大のこぎりに似ているため，かく言うのであろう。ハリサガの意味は明らかでないが，上顎に細長い鋭い針のような歯をもっているので，かく名付けたのであろうか。ホシサガ・ホシザメなる方言はこのサメ多少ホシザメと類似点があるためであろう。標準和名は田中茂穂がアブラザメと区別するために命名したものである。

6　ネコザメ　S（r）

Dist. 茨城県以南の本邦各地沿岸，朝鮮南部

B. L.　1.2m

ネコザメ（久慈）・ネコサガ（川尻・久慈）

ネコザメと言うのは，東京市場・三崎・紀州和深・串本・二木島・富山県。本県における名称は，ネコサガで，その頭部の形が猫に似るによる。ネコザメは東京市場より入って来た名称である。

7　トラザメ　N(+)

Dist. 高知以北，殊に北海道に多い

B. L.　1.5m

エンタツノカオカクシ（川尻）ネコサガ（川尻）

沖へ船を出して，日立の煙突が見えなくなる沖合で漁獲されるので初めはエントツノカオカクシであったが，なまってエンタツノカオカクシと言う。標準和名のトラザメは三崎の名。その斑紋より名付けられた。ネコサガはこのサメがネコザメに似たところがあるためである。

8　ジンベイサメ　S（r）

Dist. 全世界の温帯と熱帯

B. L.　16m

ジンベイサン（大洗）・ジンベイサマ（県下一円）・エビスサガ（大洗）

標準和名のジンベイザメは千葉県の方言より採用したものである。銚子でジンベエ，房州・三崎・伊豆内浦でエベスザメと言う。本県方言は銚子方面より移入されたものである。

この鮫は南日本のもので，本県には極く稀に来遊する。甚兵衛鮫の由来は，昔，甚兵衛なる漁師がこの鮫を見て，その大きいのに驚いた。それ以後，この鮫は甚兵衛鮫と言われたと。また一方，甚兵衛なる漁師が，この鮫を見つけ，鰹を大漁したので，それより甚兵衛鮫になったとも言われる。エビスサガは，この鮫を見つけると，鮫付鰹の大漁があるので，かく名付けたものである。

9　シュモクザメ　S（rr）

Dist. 大西洋各地沿岸・地中海・東太平洋・日本の温帯と熱帯

B. L.　4m

カネタタキ（川尻）シュモクザメ（久慈）・ネンブツサガ（大洗）・ネンブツサメ（大津）・ヨカヨカ（那珂湊）

頭の形が撞木状なので，カネタタキ・シュモクザメ・ネンブツサメなどの名がある。ヨカヨカは昔頭に盤台を載せて唄を歌いながら飴を売り歩いた飴売の方言である。この名も頭の形に由来する。標

準和名シュモクザメは東京・三崎で言われ，カネタタキは紀州塩屋・和歌浦・佐賀で言われる。これらの地方より伝播したものであろう。ネンブツサガ，ネンブツザメは他地方にないが，ネンブツブカが鹿児島にある。これも恐らく南の地方より伝播して，関東ではフカという言葉を余り使わないのでネンブツサガ，ネンブツザメとなったものであろう。マグロ延縄漁業で漁獲される。

10　ネズミザメ　N(cc)

Dist. 銚子から北海道に多い。北洋に広く分布。カリフォルニヤ州に及ぶ。

B. L.　3m

ネズミ（県下一円）・モウカ（那珂湊・久慈）

ネズミはこのサメの頭部の形から出たもので，東京でネズミザメという。モウカは神奈川県・宮城県（女川・気仙沼），岩手県，青森県で言われる。モウカザメは静岡県，宮城県（渡波），秋田（金浦），北海道（釧路・紋別・網走・三石）で言われる。

北日本のサメで，関東以北から北海道の太平洋に多く生息し，強暴性で鮭鱒類を貪食すると言われる。肉は純白質で美味である。鱶鰭（フカヒレ），蒲鉾（カマボコ）に利用されるほか，皮革原料にもなる。

モウカはマフカより変化したものと思われる。魚名にマの字を冠したものは，マイワシ・マカジキ・マダイのごとく，比較的多く獲れ，味のよいものを意味する。

元来サメをフカと呼ぶのは関西・九州方面で，東京付近ではサメの大きなものをフカと呼ぶと言われるが，関東・東北地方ではサメをフカとは呼ばない。それにもかかわらず，ネズミザメをモウカ（マフカ）と称したことは興味深い。フカと言うと形大きく，性狂暴な意味が含まれる。本種は次のアオザメ，オナガザメ，ヨシキリザメ等とともにマグロ延縄で漁獲される。

11　アオザメ　S(r)

Dist. 本州中部以南の各地，支那，インドシナ，東印度諸島，Cope of Good Hope，紅海，ハワイ，クインスランド，ニューソースウェルス，タスマニヤ，ニュージランド，Chile，セント・ヘレナ。

B. L.　7m

アオ（県下一円）・アオザメ（久慈）・クサムロリ（大津）・モロ（大洗・那珂湊）

ネズミザメと同科のサメで，よく似ているが，ネズミザメが北日本のサメであるのに対して，アオザメは南日本のサメで，漁獲量は極めて少ない。上下両顎の歯は鋭く先端が尖り，長い犬歯状を呈し，性すこぶる獰猛で，人間や他の動物に勇敢に襲いかかると言われ，この歯には猛烈な毒素があり，たとえその歯に刺されて死んだ魚に着いた毒でも，はなはだしい疼痛をひき起すほど劇烈性がある。

モロと称するのは千葉県（夷隅地方・小湊・安房・銚子・木更津）・神奈川（真鶴）で，西九州ではモロザメと言う。また岩手県（釜石）ではムロ，岩手県（釜石），宮城県（気仙沼）ではムロザメと称している。

モロはムロより変化したもので，ムロ（榁）の木は杜松（トショウ），ネズ，ネズサシ，ネズミサシとも言い，本州中部以南に分布するヒノキ科の常緑喬木で，針状の先の鋭い葉をもっている。モロはムロの木の葉のような鋭い歯をもつサメという意を表わし，この方言は本県の南の地方より伝播したものである。

クサムロリ（大津）も同様な意味をもっと考えてよい。

標準和名のアオザメは体色に由来する東京方言を採用したものであろう。

12　オナガザメ　S(rr)

Dist. 本州中部以南の本邦各地，朝鮮，台湾

B. L.　7m

オナガ（那珂湊），オナガザメ（久慈浜）

オナガは東京，紀州各地，高知市，愛知県（名古屋市場），三重県（浜島）で言う。オナガザメは東京，三崎で言う。もちろん尾部の長きことより名付けられたものである。

13　ホシザメ　NS(+)

Dist. 北海道以南，朝鮮，台湾，支那，インドシナ，アラビヤ海，Natal.

B. L.　1.5m

サガ（大洗・那珂湊），サガボ（大洗・那珂湊・河原子），ホシ（平潟），ホシサガ（大洗・那珂湊・久慈・河原子・川尻・大津）

サガはサメの意で，サガボのボは愛称である。福島県小名浜では小形のサメをサガと呼ぶという。ホシ，ホシサガのいずれも，このサメの体側にある小さな白斑より名付けられたものである。

14　ドチザメ　S(r)

Dist. 本州中部以南の本邦各地沿岸，朝鮮，中国，台湾，南部オーストラリヤ

B. L.　1.5m

サガ（大洗・那珂湊），サガボ（那珂湊），ドチ（久慈），ドチザメ（久慈），ドチボ（大洗），ドチサガ（川尻）

サメとしては小形のサメで，体色は暗褐色で，黒色の小円点が散在している。味はホシザメより著しく劣り，漁獲量も少ない。

銚子が北限とされているが，筆者はこれを那珂川河口で再三釣獲している。一般にホシザメと区別せず，サガ，サガボと呼んでいるが，大洗，久慈，川尻では，ホシザメと区別してドチボ，ドチザメ，ドチサガと言う。標準和名ドチザメは神奈川県三崎の方言である。ドチとは奴痴の意で，おろかもの，下等なものの意である。沿岸の刺網で夏期に多く漁獲される。

15　ヨシキリザメ　S(cc)

Dist. 太平洋及び大西洋の温帯と熱帯

B. L.　6m

グタベ（那珂湊），ヨシキリ（久慈浜），ヨシキリザメ（川尻），ヨメサマ（川尻）

千葉県小湊，夷隅地方，神奈川県三崎，小田原，静岡県下田でグタ（愚鈍）と言う。

北海道，東北地方から本州中部にいたる３太平洋岸に多いサメで，肉は臭気が強く昔は棄てたものである。現在では肉は蒲鉾や竹輪の原料となり，鰭はサメ類で最も良質の方であるから，この名は当

らないが，処理場にごろごろ横たえられて，ぐったりしている状態を見ると，この名称まことに適切である。

標準和名のヨシキリザメは東京市場，三崎の名であるが，意味不明である。

ヨメサマは，このサメが海中で泳いでいるとき，体色と形が美しいための名である。

16　アブラツノザメ　N(c)

Dist. 銚子以北，日本海岸ではほとんど一帯に分布する。その他朝鮮東海岸，北支，北洋，アメリカ西海岸（カリフォルニヤまで），北大西洋の東西両沿岸。

B. L.　1m

アブラサガ（大洗），ジョウヘイ（那珂湊・河原子），ハツカザメ（旭村）

このサメは北日本に広く分布し，ことに東北地方で漁獲が多く，竹輪，蒲鉾などの練製品原料として重要である。また頭および尾を除き，さらに内臓や骨を除いて棒状に乾したものを，ボウザメ，ムキザメと言う。

アブラサガは，このサメの肝臓に多量の油をふくむのでかく言う。福島県小名浜ではサガと言う。

ジョウヘイの意味は不名である。本種は次のヨロイザメとともに機船底曳網で漁獲される。

ハツカザメは，このサメが他のサメに比べ体が比較的小さいので，ハツカネズミのごとく小さいサメの意である。

標準和名のアブラツノザメは学者の命名によるものである。

これに近いアブラザメなる方言は，北海道（釧路・網走・三石），青森県（鰺沢），宮城県（渡波，気仙沼），福井県（三国）等である。

17　ヨロイザメ　NS

Dist. 茨城県，相模湾，駿河湾戸田井，高知沖の深海，その他太平洋，大西洋に広く分布。

B. L.　2m

クロコ（久慈浜）

クロコは黒子の意で，体色が黒褐色なのでかく言う。

標準和名のヨロイザメは，学者の命名によるもので，鋭い1棘のあるうろこで，体が覆われているので，名付けたものであろう。

18　ノコギリザメ　S(rr)

Dist. 北海道以南，南日本

B. L.　2m

ジョウヘイ（大洗），ダイギリ（水戸・大津）

ダイギリは大鋸の意で，吻部が著しく延び，その左右の各側に強い突起が一列に出ていて，その形が鋸のようであるからである。

ジョウヘイの意味は不明。

標準和名のノコギリザメは東京，三崎，和歌山（木ノ本・二木島），富山県（新湊）で呼ばれ，紀

州方言であろう。

19　カスザメ　S(+)

Dist. 本州中部以南

B. L.　3m

コロ（那珂湊），ハンブシ（大洗・那珂湊・久慈浜・川尻）

コロは胡蘆で，上から見た形がひょうたんのようなので，かく名付けたものである。

ハンブシは意味不明。

標準和名のカスザメは意味不明。

20　ヤマトシビレエイ　S(rr)

Dist. 本州中部の太平洋岸，銚子沖の深海

B. L.　2m

デンキ（久慈浜）

シビレエイより大形になり，大きなものは畳一畳敷きくらいある。水深２００m前後に生息する発電量も強く，人がこれに触れるとしびれるため，この名がある。標準和名のヤマトシビレエイは田中博士の命名である。

21　サカタザメ　S(+)

Dist. 本州中部以南，朝鮮，台湾，フイリッピン，アラビヤ。

B. L.　1m

コロ（大洗），ハンブシ（大洗～平潟）

コロは胡蘆と書き，ひょうたんの意で，その形が少し似ているので，かく言う。

ハンブシは意味不明。標準和名のサカタザメは大阪地方の方言よりとる。

22　ガンギエイ　NS(c)

Dist. 南支那から青森まで。

B. L.　1m

サボミヤ（大洗・那珂湊），レンテ・レンティ（那珂湊・久慈浜・河原子），ボントク（大津）

サボミヤはスボミヤからサボミヤとなったもので，このエイの腹面の口部付近のようすが人間の顔をすぼめたような形をしているところから，かく言う。ヤははずかしがりやのやの同じ意味である。

レンテ・レンティの意味は不明であるが，エイ類の小さなものをすべて，かく言う。

ボントクは宮城県玉造郡では馬鹿，馬鹿者の意味で，このエイの形態より受ける感じが馬鹿者のような感じなので，かく言う。

標準和名のガンギエイは東京および三崎方言よりとる。尾に短い棘があり雁木に似ているから，かく言う。本種はアカエイとともに機船底曳網で漁獲される。

23　アカエイ　S(c)

Dist. 本州中部以南の各地，朝鮮，中国

B. L.　1 m

アカエ（那珂湊），アカエイ（久慈浜），カスベ（那珂湊），カスペ（平潟），サボミヤ（那珂湊）

アカエ・アカエイはこの魚の背面の赤茶色の体色による。カスベ・カスペも馬鹿者の意味，ベはメに同じ。標準和名のアカエイは東京および関西の方言よりとる。

24　トビエイ　S（＋）

Dist. 本邦各地沿岸，朝鮮，中国

B. L.　1.5 m

トリエイ（大洗），ボントク（大洗～大津）

トリエイは形が鳥の飛んでいる形に似ているため，かく言う。新潟県能生，伊勢湾でも言い，宮城県気仙沼ではトリエウと言う。また，高知県の高知，順崎ではトビエと言う。ボントクは前述。

25　イトマキエイ　S（rr）

Dist. 本邦各地沿岸，朝鮮，ハワイ

B. L.　2.5 m

ギンメ（大洗・那珂湊），ハモノ（那珂湊），ロッキイド（那珂湊南方マグロ漁船）

ギンメはこの魚の眼の色を意味し，灰色から青味を帯びた体色で，この眼が銀色に光ることより，かく言う。ハモノは，この魚がカツオ漁船の付近に近づくと，カツオの群が姿を消すため，かく言う。ハモノは食むものの意である。ロッキイドはこの魚の形が米国の飛行機ロッキイドに似ているところより言われた名である。標準和名のイトマキエイは意味不明である。

和歌山県三輪崎，三重県木本，二木島でギメ，ギンメ，房州，伊豆ではギンメと言う。体重５６０Kg（１５０貫）に達し，すこぶる大きい。

26　ギンザメ　N（＋）

Dist. 北海道～九州の深海，朝鮮，中国

B. L.　1.2 m

ウサギ（久慈浜）

その頭部の形がウサギに似ているため，かく言う。水深３００fms 以深に生息すると言われる。標準和名のギンザメは東京，紀州各地，鹿児島の方言である。

27　ココノホシギンザメ（ウサギザメ）　N（r）

Dist. 青森，宮古沖，常陸大津，塩釜，銚子沖

B. L.　1 m

ウサギ（久慈浜），ギンザメ（久慈浜）クロコ（久慈浜），ケツメトダイジン（大津），ケツメトミッツ（大津）

クロコはその体色に由来するものであろう。ケツメトダイジン，ケツメトミッツともにこの魚の肛門部の形状が，あたかも肛門を３個もっているような形態なので，肛門をたくさんもっている魚という意味を表わしている。福島県の小名浜でもケツメドミッツと言う。標準和名のココノホシギンザメ

は田中博士の命名である。本種はギンザメとともに機船底曳網で漁獲される。

28　イセゴイ　S(r)

Dist. 浜名湖以南南太平洋と印度洋の温帯と熱帯，伊豆浄の池，茨城県

B. L.　５５cm

ユゴイ（涸沼・涸沼川）

ユゴイは湯鯉で高水温を好む魚という意であろうか。標準和名のイセゴイは田中博士が浜名湖の称呼よりとったが，同地のイセゴイはこの魚でなく，メナダのことであるので，この魚の台湾地方の名は，ハイレンと改名するとされている。しかしここでは松原氏によってイセゴイとしておく。

29　ギス　NS(c)

Dist. 深海性，北海道函館以南，土佐沖，新潟，但馬国，若狭湾，鳥取。

B. L.　５０cm

ダボ（大洗・久慈浜），ダボギス（県下一円）

神奈川県でもダボあるいはダボギスと言う。ダボは愚人，馬鹿の意で，東京では筆者等のうち浅野が小供のころ，チチブをダボハゼと言った。このハゼはミミズその他の餌をつけると，少しばかり針が出ていようが，たやすく釣れるので，馬鹿なハゼと言う意味である。ダボギスもまた同じ意味である。標準和名のギスは東京市場の称呼である。ギスはやせている魚の意。

30　コノシロ　S(+)

Dist. 本州中部以南各地，朝鮮，中国，インド・ポリネシヤ。

B. L.　２５cm

コノシロ（波崎，大洗，涸沼北松川，那珂湊，久慈浜），コハダ（大洗・涸沼北松川）

コノシロは子の代，この城とも書かれ，各種の説話がある。生まれた子が続いて死ぬ家では，生れた子の胞衣とこの魚とをいっしょに埋めると，その子は育つが，一生コノシロは食べさせないという。また下野の国の長者の娘が常陸の国司から無理に召されようとしたので，娘は死んだと偽り，棺にコノシロを入れて焼いて申しわけしたという。この魚を焼くと，死人を焼くにおいがするからである。徳川時代の武士は，この城を焼く，この城を食うというのをきらい，この魚を食べなかったと言われる。コハダは体長１０cmぐらいの若魚を言う。意味不明。すし種として用いる。東京，関西，九州，紀州，鹿児島，高知，壱岐，大村湾，鳥羽，富山でもコノシロと言う。東京，紀州塩屋，湯浅，八郎潟でコハダと言う。

31　ウルメイワシ　NS(+)

Dist. 北海道以南～日本各地，朝鮮，中国，西オーストラリヤ，南オーストラリヤ，ニュー・ノースウエルス，Natal，カリフォルニヤ。

B. L.　３０cm

ウルメイワシ（県下一円）

大きな眼が透明な厚い膜をかぶっているため，うるんだ大きな眼をもつイワシと言う意味で，かく

言う。東京，三崎，紀州各地，壱岐，富山県氷見でも，かく言う。イワシまき網で漁獲される。

32　ニシン　N(c)

Dist. 北日本，朝鮮，北中国，北洋，北米太平洋側

B. L.　３０cm

イワシコ（涸沼・涸沼川），カド（県下一円），カドイワシ（県下一円），雪魚（涸沼）

稚魚の体長５～７cmくらいのものをイワシコと言う。カドの意味不明。東北，北海道でかく言う。カドイワシは北海道，福島でも言う。岩手では鮮魚をカド，乾魚をニシンと言う。青森西部では鮮魚をニシン，乾魚をカドと言う。県内でカドと呼んでいる所では数の子を子供の童名に因んで勝（和）ちゃん数の子ニシンの子と云っている。カズノコはカドノコより出たものであろう。本県沿岸の海では水深１００～１６０fms. に生息し，底引網に入ることがある。雄が多く雌は少ない。涸沼では雪の多い年に豊漁するので，雪魚と言う。標準和名のニシンの意味不明。刺網と箕巻で漁獲される。

33　マイワシ　NS(c)

Dist. 南部のカラフト，沿海州，日本および朝鮮各地，支那海

B. L.　２５cm

イワシ（県下一円），イワシコ（大洗），ガラ（大津），ガライワシ（大津），タツノクチ(大津)，チュウバ（那珂湊・川尻），オオバ（那珂湊）

イワシ意味不明。一般にかく言う。体長３～５cmの稚魚をイワシコという。田作や目ざしなどに製造するイワシの意で，ガラまたはガライワシ，口の形，頭部が幾分竜に似ているので全長５～７cmくらいのものをタツノクチ，体長１０cm前後のものを小羽と言う。中ぐらいの大きさのものをチュウバ（体長１５cm前後のもの），大形のものをオオバ（体長約１８cm以上）と言う。九州，東北でもチウバ，オオバと言う。標準和名のマイワシは他のイワシ類と区別する名で，富山県の各地でも，また一般にも言われる。イワシまき網で漁獲される。

34　サッパ　NS(+)

Dist. 北海道以南の本邦各地，朝鮮，中国，フイリッピン

B. L.　２０cm

サッパ（波崎），サッパイ（那珂湊），サッペ（那珂湊）

東京ではサッパと言い，千葉県の各地，福島県の小名浜でサッペラと言う。大言海にはこの魚の味淡白でサッパリしているので，この名があるとしている。はなはだこじつけのようだが，この魚は惣菜用とし，またすしの種としても用いられる。この名が江戸時代に発生したらしいので，あるいは当っているかも知れぬ。

35　カタクチイワシ　NS(cc)

Dist. 本邦各地，朝鮮，中国

B. L.　１５cm

イワシコ（大洗），ガライワシ（大津），カワシラス（波崎），クロ（大洗），クロボウズ(大洗)，

ゴボウ（大津），ゴボウイワシ（大洗），ザニ（久慈浜），セグロ（県下一円），セグロイワシ（県下一円），タツノクチ（大津），チリメン（大洗），ドロメ（波崎），チュウセグロ（波崎），ボウズ（大洗），ヒシコ（水戸），ゴボウ（県下一円），カタクチ（県下一円），チカリ（波崎），チリメンシラス（波崎），カエリ（波崎）

稚魚で体色のついてきたものをイワシコ，ごまめや目棘にするくらいの大きさのものをガライワシ，利根川の河口でとれるこの魚のシラスをカワシラス，体色が黒っぽくなってきたころの稚魚をクロ，クロボウズ，この魚の特に大きなものをゴボウ，ゴボウイワシ，他のイワシ類に比べ体が細長くごぼうに似ているからである。カタクチイワシの成長段階による名称について，大洗では２cm前後のものをチリメン，３～３.５cm位のものをボウズ，４cm位の体色が黒味を帯びてきたものをイワシコ，５cm位のものをジャミイワシ，６～７cm位のものをセグロ，８～９cm位のものを中セグロ，１０cm以上のものをゴボー又はゴボーセグロと言う。波崎では２cm前後のものをチリメンシラス，３～３.５cm位のものをシラス，４cm位になり目が白く光り体色が黒味を帯びてくるとチカリ，５cm位のものをカエリ，６～７cm位のものをセグロ，８～９cm位のものをジャミ，又はコザエニボシと呼び，セグロとジャミの中間位のものが１０～１１月に正月用品の田作として加工される，１０cm以上のものを大セグロ又はゴボウセグロと言っている。この魚は背部青黒色なのでセグロ，セグロイワシと言い，青森県より千葉県沿岸，愛知県，高知県，愛媛県，山口県，兵庫県，新潟県で言う。また口が大く裂け，頭部の形が竜に似ているのでタツノクチと言い，この魚の幼稚魚時代をシラスと一般に云われ，きわめて小さい（全長２cm前後）ものをチリメンと言う。愛知，広島県でも，かく言う。この乾製品を高知でチリメンジャコと言う。高知ではタイの幼魚をタイジャコと称する。チリメンはチリメンヂャコよりきたもので，チリメンとはセグロの幼魚の煮干しが真直ぐでなく，いろいろの形にちぢまっているのでチリメンヂャコと言ったのである。ボウズは全長３～４cmのもので形態的には吻部，両顎ともに口裂がハッキリしてくる。ジャミは全長５～６cmで形態，体色ともに成魚の体形となる。本県のシラス曳網漁業はボウズが主体となって漁獲されている。この魚の稚魚をドロメと言う。長崎県王滝で魚の子をトロメ，静岡県安部郡でメダカをトロメンコと言う。中くらいの大きさのものをチュウセグロ，頭部がこの魚の坊主頭の特徴を表わすようになったものをボウズと言う。この魚の小形のものをヒシコと言う。宮城県（女川），愛知県（渥美，豊浜，名古屋市場），静岡県（長田）でも言い，東京ではシコあるいはシコイワシと言う。標準和名のカタクチイワシ，略してカタクチは関東，紀州，北陸で言う。イワシまき網で漁獲される。

36　マスノスケ　N（r）

Dist. 太平洋岸根室以北に夏季まれに来遊，北方に多く，沿海州，カムチャッカ，アラスカ，北米太平洋側，寒流の強い年は本県波崎沖まで来遊する。

B. L.　２m．　B. W. ３６Kg（本県で最高のもの）

オオマス（大津），サケ（波崎），スケ（大洗），スケマス（波崎・大洗・会瀬），マス（那珂湊・川尻・会瀬・大津），オオメマス（大洗），マスノスケ（波崎）

サケ科のうちで最も大きくなるので，オオマス，オオメマスと言う。岩手県ではサケをオオメマスと言う。サケの意味不明。常陸の古い方言で，大きなサケをスケと言う。青森（八戸），北海道など

でもかく言う。スケマスも同じ意味である。標準和名のマスノスケは本県，北海道でも言う。本種は定置網と刺網で漁獲される。

37　サケ　N(cc)

Dist. 太平洋岸では利根川以北，日本海岸では，ほとんど全沿岸，朝鮮東海岸，沿海州，千島，カムチャッカ，アラスカ，北米西海岸

B. L.　７０cm

サケノヨ（那珂湊），シャケ（水戸），シャケンボ（結城・下館）

富山県（魚津）でサケノ，富山県（氷見）でサケノイオ，宮城県（気仙沼），富山県でサケノオ，秋田県（金浦）でサケノヨと言う。すなわちサケノヨとはサケという魚と言う意味である。シャケは東京，静岡県（興津・川西）で言い，サケより転音したものである。標準和名のサケは東京，東北地方，北海道，富山県で言われる。主として刺網，仕掛網等で漁獲される。

38　サクラマス　N(cc)

Dist. 北海道に多い。まれに瀬戸内海や熊本県の沖で漁獲される。

B. L.　６０cm

オゴ（波崎），マス（那珂湊・川尻・会瀬・大津），サクラマス（平潟）

オゴは娘という意で，この魚の稚魚をオゴと言う。マスの意味不明。マスという呼名は古く出雲風土記に出ている。気仙沼・石巻・富山県で言う。標準和名のサクラマスは北海道方言で７～８月の産卵期には，普通銀白色の腹部に雌雄ともに桃色と黄色のまじった雲斑が現われ，美しい桜色となるため，この名がある。定置網で漁獲される。

39　ヤマベ　N(cc)

Dist. 河川倭小型，北海道と東北地方の河川に多く，南限は太平洋側では相模川，日本海側では島根県から鳥取県。

B. L.　３０cm

ヤマベ（久慈郡黒沢村・北茨城市花園）

ヤマベはヤモメ→ヤマメ→ヤマベと転化したものでヤモメとヤマメは男やもめの意味で，この魚は一般に雌が少なく，雄が多いためである。北海道，東北地方，越後，塩原でヤマベ，東京付近，箱根，上野沼田，美濃，信州でヤマメ，神奈川県（秦野），東京付近山間部，伊豆内浦でヤモメと言う。

40　ニジマス　N(cc)

Dist. 北米カルホルニヤ州の原産で，明治１０年に初めて我国に移殖，本県では筑波町，大甕，柳沢，大子町，大洗町などで飼育する。

B. L.　３０cm

ニジマス（筑波・大甕・柳沢・大子・大洗）

標準和名ニジマスは米名Rainbow troutより採ったもので，体の側線に沿い，巾広いバラ色の１縦帯が暗色の地色に対照して鮮明に走っており，これは成長するに従い，その美しさを増し，生殖期には特にあざやかとなるのでこの名がある。

41　アユ　NS(cc)

Dist. 北海道石狩川および湧沸川以南，台湾の淡水川までと朝鮮。

B. L.　３０cm

アイ（県下一円），アユ（県下一円），カサギ（会瀬・滑川・川尻・大津）

アイ，アユは意味不明である。アイを石垣島でけんか，アユイを喜界島で闘う意味であることと関係がなかろうか。アイオ（広島），アイノイオ（岐阜奥地）アイノヨ（秋田），エノヨ（秋田），アイギョオ（山口），アイナゴ（石川・和歌山・広島）などの方言があるのも面白い。カサギは４～６月溯上期の稚魚の名で，その意味は不明である。アイというところは静岡，高知，和歌山。福島県（相馬）でシラスをカサギと言う。主としてぎ餌と友釣り，落し等によって漁獲される。

42　ワカサギ　N(cc)

Dist. 本邦各地の湖沼，南部のものは多くは移殖，朝鮮。

B. L.　１５cm

公魚（霞ケ浦・北浦），サクラウオ（土浦），ワカサギ（県下一円）

公魚やワカサギについては次のような説話がある。関ケ原戦後，若狭国の領主新庄家１５万石は，外様大名なので国替えを命ぜられ，常州麻生へ転封され，録高も１万石に減ぜられた。そのため新庄家は財政が豊かでないため，参勤交代の折，将軍家へ献上するものを霞ケ浦でとれるワカサギを当てたため，公方様に献上する魚というので，それ以来公魚なる文字を用いるようになった。またこの魚は若狭ではアマサギと言ったが，新庄家が麻生に移って以来，若狭から移って来た魚という意味でワカサギと称した。サクラウオの意は産卵期に群をなして桜川にのぼる魚ということである。霞ケ浦，北浦，涸沼が主産地で刺網，帆曳，大徳網で漁獲される。

43　シラウオ　NS(cc)

Dist. 北方種で東海岸では北海道網走湖以南岡山県まで，日本海側ではカラフト，北海道，本州，九州西岸，ウラジオストックから釜山まで。

B. L.　9cm

カワシラス（波崎），シラオ（霞ケ浦，北浦・涸沼・磯崎）シラウオ（県下一円），シラス（霞ケ浦・北浦），トノサマウオ（霞ケ浦麻生・涸沼），チリメン（大洗），ババ（大洗），ババシラウオ（大洗・久慈浜），ババシラオ（大洗），ホンジラオ（大洗・波崎）マシラス（大洗）

利根川河口でとれるシラスなのでカワシラス，シラオは白魚の意，青森県（八戸），宮城県でも言う。トノサマウオと呼ぶ由来は，江戸時代にこの魚を漁民から領主へ，領主から将軍家へ毎年献納したからだといわれる。シラスは白子の意で体色白色の魚を言い，石川県（今江潟・木場潟），三重県の内湾，北海道釧路でも言う。チリメンは乾製品としたとき，ちりめんの如く縮むのでこの名がある。大きさは２～３cmぐらいのものを言う。ババ，ババシラウオはこの魚の大形のもの，ホンジラウオは大洗では中形のもの，波崎ではシラス期のものを言い，マシラスは体長３cmぐらいのものをいう。標準和名のシラウオは勢州，武蔵隅田川，中川，佃島，周防山郡，備前平江，伊勢桑名の方言である。刺網，曳網，張網等で漁獲される。

44　ニギス　S(+)

Dist. 相模湾より土佐湾，富山湾，長崎，釜山

B. L.　２２cm

オキギス（大洗・久慈浜・平潟），ハダカメヒカリ（久慈浜）

沖のやや深い海に生息するのでオキギスと言い，眼が大きく光り，うろこがはがれやすいのでハダカメヒカリと言う。標準和名のニギスは富山県魚津・滑川で言う。ニギスの意味は不明。

45　アオメエソ　S(+)

Dist. 茨城県以南の南日本

B. L.　１５cm

ハダカ（久慈浜），ハダカメヒカリ（久慈浜），メヒカリ（波崎・久慈浜）

うろこがはがれやすいのでハダカと言い，眼が光沢ある緑色なのでメヒカリと言い，愛知県，高知県でもかく言う。標準和名のアオメエソの称呼地は不明。

46　ハダカイワシ　NS(+)

Dist. 本邦各地，フイリッピン，インド洋

B. L.　２０cm

ハダカメヒカリ（久慈浜）

漁獲すると，うろこがはがれ，眼前部に大きな発光器があるためにハダカメヒカリと言う。標準和名のハダカイワシは漁獲されたとき，うろこがはがれやすいため，この名がある。東京で称呼される名である。前種のアオメエソとともに機船底曳網で漁獲される。

47　ミズウオ　NS(r)

Dist. 太平洋の温帯と熱帯の深海に広く分布し，我が国では相模湾や駿河湾に多いが，北は北海道におよんでいる。

B. L.　1.5cm

ガランチョ（大洗・那珂湊）

この魚を煮ると水のように肉が溶け，骨だけになるので，ガランチョと言う。また同様な意味で，標準和名のミズウオがある。ミズウオは静岡県蒲原，伊豆三津の方言である。

48　ムラサキシャチブリ　NS(rr)

Dist. 茨城県

B. L.　６０cm

トオジン（水戸・那珂湊）

頭部の体の前半の形，冠をかぶった唐人に似ているので，トオジンと言う。標準和名のムラサキシャチブリは田中博士の命名である。ムラサキシャチブリのムラサキは体色，シャチブリは背びれを立てた体の前半が，ややシャチに似ているためである。機船底曳網で漁獲される。

49　タナゴ　NS(cc)

Dist. 本州の河川湖沼

B. L.　9 cm

アカベラ（水戸・霞ケ浦・北浦），オシャラクブナ（大宮），アカベ（宍戸），タナゴ（那珂湊・大洗・瓜連・友部・涸沼），ニガタ（水戸・岩間），ニガフナ（水戸），ニガブナ（太田），ニガッチョ（那珂湊・勝田），タラシコ（友部）

アカベ，アカベラは生殖時期に背びれ，しりびれの美しい紅色になった雄のタナゴを言い，シロベラはひれや体色の白っぽい雄のタナゴを言う。ニガブナ，ニガッチョ，ニガタはいずれも苦味のあるフナ，タナゴの意味で，ニガッチョはニガッチョメとメをつけ，ニガタはニガタナゴとナゴをつけてみるとわかりやすい。ニガフナは愛知県，九州博多，大分宇佐などで言い，ニガブナは京都，広島，山口で言う。オシャラクブナは，土地の方言でおしゃれすることをオシャラクすると言い，この魚は産卵期になると，背びれ，しりびれなどが美しい紅色を帯びてくるので，かく言う。タナゴは東京，吉野川，富山県氷見で言い，江戸時代より用いられ，標準和名に採用されている。その意味は不明である。涸沼ではタナゴ，ゼニタナゴ，ヤリタナゴ，タビラの４種を区別せず，単にタナゴと総称している。

50　ヤリタナゴ　NS(cc)

Dist. 青森県を除く，本州全土，四国，九州，朝鮮

B. L.　8 cm

ニガタ（霞ケ浦・北浦・水戸・岩間），ニガブナ（霞ケ浦・北浦・太田），ヤナギザコ（ — ）

ヤナギザコとはこの魚の体形がタナゴより細長く，その形が柳の葉に似ているので，かく言う。標準和名のヤリタナゴは田中博士命名である。

51　タビラ　NS(+)

Dist. 東北地方から九州に分布。清澄な細流にすむ。本県では霞ケ浦・北浦・涸沼に分布。

B. L.　9 cm

タナゴ（霞ケ浦・北浦・涸沼）

標準和名のタビラは江戸時代からの呼名で京都の方言である。タビラは田圃およびその付近の細流にすむ左右に平たい魚という意味で，ビラ，ベラは左右に平らたい魚を意味する。

52　バラタナゴ　S(cc)

Dist. 琵琶湖以西の本州・九州・朝鮮・台湾・中国・近年関東各地に繁殖した。

B. L.　5 cm

タナゴ（霞ケ浦）

本種は関東平野に分布しなかった魚であるが，ソウギョの種苗に混じて移殖されたと言われる。昭和２５年夏ごろ利根川より霞ケ浦に入り，現在湖岸に普通に見られる。雄は産卵期が近づくと美しいバラ色の婚姻色を体側腹方や背びれ前上縁および，しびれなどに現わし，体の前背面はクジャク色に光るので，この標準和名のバラタナゴが生まれたものであろう。タナゴ類はわが国にすむ淡水魚の中では最も美しい体色をもち，体も小形なので観賞魚として最適で，東京都内のデパートで時々販売され，

米国へも輸出されている。

53　ゼニタナゴ　N(+)

Dist. 関東以北，移殖の結果，諏訪湖・天竜川水系に分布。

B. L.　8 cm

オカメブナ（水戸），オカメザコ（水戸市下市），カシマタナゴ（霞ケ浦），カンジキタナゴ（霞ケ浦・北浦），チョウシタナゴ（北浦），ニガタ（水戸），ニガブナ（水戸・太田）

標準和名ゼニタナゴは東京方言を採用している。このタナゴは他のタナゴに比べ，うろこの排列の工合がちがい，細かくなっており；また体形も卵形で，小判に似ているところからこの名が生まれた。オカメブナ，オカメザコは，いずれもその形態，ぼってりした感じより名付けられたもので，東京でも言う。東京ではこのほか，オタフク，ベンテンタナゴとも言い，山形ではビッチャタナゴと言う。カンジキタナゴは深田に生息するタナゴの意で，カンジキは深田で稲刈りするときはく田下駄のことである。カシマタナゴ，チョウシタナゴのようにタナゴに他の地方の地名をつけたのは，味が悪いことを意味する。事実このタナゴは他のタナゴ類よりも苦味が強く，まずい。ニガタ，ニガブナもこの意を表わしている。

54　ヒガイ　S(c)

Dist. 天然の分布は豊橋以西の本州と九州。近年霞ケ浦その他関東各地に移殖されて繁殖している。大正７年（１９１８）に琵琶湖より移殖，桜川に放流，現在湖岸至るところに普通に見られる。

B. L.　２５cm

ヒガイ（霞ケ浦）

標準和名のヒガイは琵琶湖の方言で，この魚は日当りのよいところを好み，必ず日に向っているのでヒガイ（日向い）と呼ばれるようになったとの説がある。この魚を明治天皇が賞美したので鰉という字をヒガイと読ませる。

55　ツチフキ（スナモロコ）　S(+)

Dist. 天然の分布は淀川以西の本州と九州。本県では利根川・霞ケ浦。

B. L.　１５cm

ザコ（霞ケ浦・北浦）

この魚は１２～１３年前に利根川から霞ケ浦に入ってきたもので，霞ケ浦・北浦では張網および地引網でまれに漁獲される。利根川筋では相当繁殖している。本県ではザコとして取り扱われ別に呼名はないようである。標準和名のツチフキ（スナモロコ）はこの魚の生態上より名付けられたもので，川や湖の流れのゆるやかな水域の砂底か砂泥底にすみ，えさをさがすとき口より水流を噴出させて砂を吹くように見えるので，この名がある。ツチフキは関西の方言で，スナモロコは大阪の方言である。

56　タモロコ　S(+)

Dist. 天然の分布は静岡および新潟県以西，現在では関東に繁殖。本県では霞ケ浦に分布。

B. L.　１５cm

ザコ（霞ケ浦）

ザコとして取り扱われる。この魚はツチフキと同じころ関西より移殖されたもので，霞ケ浦へは利根川より入ったもので，まれに張網で漁獲される。標準和名のタモロコは琵琶湖の方言である。モロコの意不明。

57　カマツカ　NS(+)

Dist. 北海道・青森を除くわが国全土，朝鮮・満州

B. L.　２５cm

スナムグリ（那珂町），ヤマザイ（ — ）

スナムグリはこの魚の習性を表わしたもので，河川・湖沼の砂底にすむ底魚で，砂にもぐる性質があるので，かく言う。ヤマザイは山間部の河川にすむサイのような魚の意である。標準和名のカマツカは琵琶湖の方言である。カマツカは鎌の柄の意

58　ニゴイ　NS(c)

Dist. 北海道を除く日本のほとんど全土。

B. L.　２１cm

サイ（霞ケ浦・北浦・水戸・那珂湊・久慈浜・涸沼・太田），サイメ（下石崎），ハナミザイ（土浦桜川）

サイは細魚の意で体の細いことを意味する。本県のほか，琵琶湖・東京・宮城・群馬・栃木・福島でもかく言う。ハナミザイは土浦では春，桜川で漁獲されるころ，味が最もよくなるので，かく言う。標準和名のニゴイは琵琶湖の方言で，コイに似た魚の意である。

59　モツゴ（イシモロコ）　NS(cc)

Dist. 本州の河川，朝鮮，中国

B. L.　8cm

オボソ（霞ケ浦・北浦），クチボソ（東海），ハヤ（水戸），ヤキ（霞ケ浦・北浦），ヤキハヤ（土浦），ヤナギザコ（水戸），ヤナギバヤ（土浦）

オボソは小細の意で，体形が細長く小形なので，かく言う。クチボソは琵琶湖・東京・群馬で言い，口裂が小さいことを意味する。ハヤは本県のほか，東京・下総東陽でも言う。ハヤは速の意で，この魚の泳ぎかたが速いということを意味する。ヤキは焼の意で，普通焼いて飼鳥のえさに利用されるので，この名ができた。小川，沼などにたくさんいるが，小骨が多く苦味があるので，あまり食用にされない。フナ釣りなどで，よくえさを食い逃げされるので，東京の釣人は外道といって，この魚を嫌う。ヤナギザコ，ヤナギバヤはその形が細長く柳の葉のようであることを意味する。ヤナギバヤは群馬県城沼でも言う。標準和名のモツゴは高知県の方言で，その意味は不明である。イシモロコは味の悪いモロコの意。

60　ソウギョ　S(+)

Dist. 利根川，霞ケ浦，北浦

B. L.　４０cm

ボラゴイ（霞ケ浦・北浦），ソウギョ（那珂湊・涸沼），ロケットウオ（利根川）

昭和１８年・２０年の２回，中国より移殖したが，その後利根川水系で繁殖することが確められた。ボラゴイはその体形より名付けられたもので，頭はボラのごとく，体はコイに似ているからである。ソウギョは草魚で，これは草魚（Tsuao－yiu）なる中国名よりきたもので，この魚が水草や陸草を好んで食べる食性より名付けられたものである。ロケットウオはこの魚の大きなものが，ものすごい勢で突進し囲んでいる網をうち破って逃げる状態がロケットのようであるとの意味である。

61　ウグイ　NS(cc)

Dist. 北海道以南の本邦各地，カラフト，沿海州

B. L.　３０cm

アイソ（霞ケ浦・下館・黒沢），ザコ（北茨城），ザコメ（山方），ハヤ（霞ケ浦・下館），ハラカ（北相馬郡大井沢），マルタ（霞ケ浦・涸沼・友部・北浦・笠間・水戸），マルダ（友部）

アイソは日光でも言う。その意味不明。ザコは日光，下野でも言う。ハヤは箱根，信州上田，多摩川中流以上，松本平でも言われる。ハラカはその体色より名付けられたもので，この魚は雌雄とも腹部に朱赤色の婚姻色を現わすためである。仙台ではハラアカ，ハラガと言う。マルタ，マルダはその形態よりきた名前で丸太の意味である。標準和名のウグイは琵琶湖，東京付近，箱根，静岡，岐阜，高山，紀州各地，鳥羽，富山県氷見，東岩瀬など関東以南の方言である。ウグイは鵜食いの意で，う鳥の食う魚であるとの解釈もある。

62　ユサンウグイ（マルタ）　N(cc)

Dist. 本州中部以北，北海道，朝鮮の内湾・河口

B. L.　５０cm

マルタ（霞ケ浦・大洗・那珂湊・水戸・涸沼），ウシマルタ（大洗・那珂湊）

本種はコイ科中唯一の降海魚であり，ウグイより体が著しく大きくなる。その最も成長したものをウシマルタと言う。マルタは宮城県若柳町，武蔵立川，多摩川，銚子でも言う。標準和名のユサンウグイの意味不明。

63　アブラハヤ　NS(c)

Dist. 北日本および南日本

B. L.　１５cm

ハヤ・ニガベ（久慈郡黒沢村）

本種は山間の溪流の淀みに生息し，本県では久慈川の上流にすむ。ハヤは九州筑後川，駿河内浦でも言い，ニガベはこの魚に苦みがあることを意味する。上総横芝でニガタ，栃木県那須郡大内村でニガンベまたはニガザッコ，ニガザッコは山形県最上郡金山町付近でも言う。標準和名のアブラハヤは体が油を塗ったよう色つやをしている魚という意味である。この名は田中博士の命名したものである。

64　オイカワ　S(cc)

Dist. 本州中部以南，台湾，朝鮮，中国

B. L.　20cm

アカハラ（下館），イカリ（水戸・太田・山方・大宮・大子），ジョロウブナ♂（水戸），テンジンヤマベ♂（下館），ハナイカリ♂（大子），ババイカリ（桂村），ヤマベ（霞ケ浦・北浦・牛久沼・涸沼・岩間・友部・東海・須和）

アカハラは，この魚の雄が体側腹部が美しい赤色を帯びるからである。ハナイカリも，ジョロウブナもそれと同様な意味をもつ。テンジンヤマベの意味不明。アカハラは栃木県でも言う。イカリの意味不明。ババイカリはこの魚の老成したものを言う。ヤマベというのは，この魚がヤマメに似た斑紋が体側に現われるので言うのである。標準和名のオイカワは京都・琵琶湖の方言で，その意味不明。一般に雄を言うようである。岐阜，紀州岩出でも言う。関東ではオイカワという名は用いられない。

65　フナ　NS(cc)

Dist. アジヤ・ヨーロッパの温帯

B. L.　30cm

キンタロウ（友部），キンブナ（那珂湊），ギンブナ（霞ケ浦・北浦・友部・那珂湊），ゲンゴロウ（友部），コブナ（霞ケ浦），ゴマカス（ — ），ヒラブナ（涸沼・中石崎）ビワコブナ（霞ケ浦・北浦），フナメ（友部・桂・須和），フナッコ（那珂湊・水戸），マツカワブナ（霞ケ浦・北浦），ヘラブラ（県下一円）

キンタロウはその体が丸々と肥え，金太郎のような感じがするので名付けられ，東京の釣師も言う。キンブナは体色の金色のものを言う。ギンブナは体色の銀色のもので，潮入り川に多い。コブナ，フナッコはフナの小形のものを言い，ゴマカスは体に黒色の斑点が多いものを言う。ヒラブナは体が側扁して左右に平らたいものを言う。ビワコブナは琵琶湖より移殖したゲンゴロウブナのことである。ゲンゴロウブナは琵琶湖の魚商源五郎がこのフナだけを取扱ったために名付けられた。マツカワブナは立鱗病にかかったものを言う。標準和名のフナは古名称で万葉集にでている。「おきへ往き，へにゆきいまや，妹がため，わがすなどれる藻臥束鮒。」

66　コイ　NS(cc)

Dist. アジアおよびヨーロッパに広く分布。

B. L.　60cm

コイ（県下一円），コイメ（友部・須和）養和田ゴイ（ — ）

養和田鯉は毛吹草（正保二年）に出てくる呼名，意味不明。標準和名のコイは古い名で日本書紀，常陸風土記にでている。意味不明。霞ケ浦では大徳網で多獲される。

67　コクレン　S(r)

Dist. 南中国が原産，ソウギョやハクレンとともに移殖され，本県では霞ケ浦に繁殖している。

B. L.　1m

方言なし。標準和名のコクレン（黒鯉）は中国名。中国では重要淡水魚の一つである。台湾の養殖

魚である。

68　ハクレン（白鱗）　S（c）

Dist. 中国が原産。ソウギョとともに移殖され，利根川水系で繁殖している。台湾へ種苗として輸出している。

B. L.　1m

方言なし。標準和名のハクレンは中国名。中国重要淡水魚の一つで，台湾の養殖魚である。

69　アオウオ（青魚）　S（r）

Dist. 中国が原産。本県では利根川水系および霞ケ浦・北浦に繁殖している。

B. L.　1m

ソウギョ（霞ケ浦・北浦・涸沼）

ソウギョに似ているから一般にソウギと言いソウギョと区別しない。標準和名のアオウオは体色が青味を帯びるためである。

70　ドジョウ　NS(+)

Dist. わが国全土，朝鮮，台湾，印度，カラフト。

B. L.　16cm

ドジョウ（県下一円），ドジョウメ（東海・久慈浜・須和）

標準和名のドジョウは沖縄，静岡県韮山・一宮の方言である。ドジョウは土生で水底の泥土から生まれる意味との説もある。

71　ホトケドジョウ　NS(+)

Dist. 秋田以南の本州および四国

B. L.　6cm

オカメザコ（水戸），オカメドジョウ（霞ケ浦・北浦）

頭の形の感じがオカメに似ているので，オカメザコ・オカメドジョウという。信州松本平でもオカメドジョウと言う。標準和名のホトケドジョウは琵琶湖の方言である。その意味は不明。

72　シマドジョウ　NS(cc)

Dist. 北海道および九州西部を除くわが国の全土。

B. L.　8cm

イシドジョウ（ — ），カワドジョウ（友部），アナムグリ（霞ケ浦・北浦），シマドジョウ（涸沼沼前・那珂湊・勝田・桂），シミズコ（霞ケ浦・北浦・涸沼沼前），スナドジョウ（友部・静・須和・勝田・東海・那珂湊・久慈浜），スナムグリ（水戸・大洗・太田・黒沢），スナモグリ（岩間・宍戸・水戸・東海・太田）ドジョウ（日立・磯崎），ドガモ（黒沢），マンネンドジョウ（大洗・那珂湊），ヤマドジョウ（山方）

水の澄んだ湖沼・河川の砂底あるいは砂れき底に生息するので，イシドジョウ・スナドジョウと言い，清水の湧出するような清澄な砂底にすむのでシミズコと言う。稲田や泥底よりも流のある細流に

すむのでカワドジョウと言う。また砂底にもぐる習性があるのでスナムグリ・スナモグリと言う。マンネンドジョウとはこの魚の特に成長した大きなものを言う。ドガモの意味は不明。ヤマドジョウは山間部の細流にも生息するので，かく言う。標準和名のシマドジョウは琵琶湖の方言である。この名は魚のしま模様の斑紋よりでている。

73　ナマズ　NS(c)

Dist. 北海道を除く日本各地，朝鮮，台湾，中国。

B. L.　50cm

ギュウタ（北浦新宮），ナマズ（県下一円），ビリ（猿島郡）

ギュウタは奈良県北葛城郡王寺，群馬県渋川でも言うが，この地方ではナマズでなくて，ギギをさす。ギュウタの意味不明。ナマズは古い名で和名抄にでている。その意味不明。ビリはナマズの幼魚をさす。

74　ギギ　S(+)

Dist. 本州中部以南，四国の河川湖沼，本県では涸沼に注ぐ川。

B. L.　15cm

カワバチ（水戸），カババチ（水戸），カンバチ（水戸），ギバチ（水戸），ギンギョ（水戸），ギンギョバチ（石崎・下館），ギンバチ（下館），ギンギロ（石崎）

この方言はいずれも胸びれにある棘に関係し，この棘に刺されると大へんに痛み，はちを連想し，また棘を直角にたて，それを後ろへ動かしてギーギーという音をだすので，これらの方言が生まれた。カワバチは川ばちで，カババチ，カンバチはカワバチより転化したものである。ギバチは東京，紀州有田郡，琵琶湖で，ギンギョは千葉県印旛沼，小名浜，棚倉，仙台，盛岡で言う。標準和名のギギは琵琶湖，紀州各地の方言である。

75　ギバチ　N(c)

Dist. 関東地方以北の本州，九州西部に不連続に分布。生息環境はギギとほぼ同様だが両種が混生する水域はまだ発見されない。

B. L.　21cm

カワバチ（霞ケ浦・北浦）ギギョバチ（御前山），ギバチ（茨城・北茨城・岩間・水戸・平磯・須和・山方），ギュウバチ（霞ケ浦・北浦），ギンギュウバチ（岩間・太田）ギンギョ（水戸・太田），ギンギョバチ（岩間・友部・水戸・瓜連・太田・静・下石崎・那珂），ギンギョメ（須和），ギンギロ（水戸），ギンギュバチ（岩間・太田），ギンギロバチ（那珂・東海・平潟），ギンバチ（黒沢・下館），ギンヨバチ（須和），ハゲキギ（霞ケ浦）

本種の方言も前種のギギと同様に，その胸びの棘，それにある毒腺，発音に関係して生まれたもので，標準和名のギバチは東京付近の方言を採用した。カワバチと同じような呼名のカアバチは上総丘山・川上で，カアバツは上総大和・睦岡成東で言う。

76　ウナギ　NS(cc)

Dist. 太平洋側北海道以南，日本海側秋田以南

B. L.　７０cm

カヤコ（宍戸・水戸），カヤンコ（那珂湊），ガヨコ（那珂湊），カリンコ（常澄），センコ（内原），ダツ（霞ケ浦・北浦），ダツコ（霞ケ浦・北浦），ビリ（霞ケ浦・北浦），ボッカ（涸沼・大洗・那珂湊），メソ（宍戸・那珂湊），メソッコ（水戸）

カヤコ，カヤンコ，ガヨコ，カリンコはその意味不明。同系統と思われるカヨは上総睦岡・公平・東金に，カヨウが上総に，カヨコが千葉県山武郡二川村にある。センコは線香の意で，細い幼魚を意味する。ダツ・ダッコはシラス期の幼魚で，その意味不明。ビリは小さいものをののしる言葉で，ウナギの幼魚を言う。同系統の方言は和歌山のビリウナギである。ボッカは木の根株を意味し，ウナギの特に大きいものを言う。メソ，メソッコはメズコ（愛子）より転化してウナギの小さいものを言う。メソは「物類称呼」（安永４年・１７７５年）にのっており東京，千葉，群馬，埼玉，神奈川，静岡，愛知，岐阜の各都県で言われる。標準和名のウナギはムナギより転化したもので，古い呼名で万葉集１６に「石麻呂に吾れ物申す夏痩せに吉しと言うものぞ武奈伎取り食せ」。ムナギは棟木の意でウナギの体形を棟木のような長い材にたとえたものであろう。この古名が大分市に残っている。本種は筌，笹漬し，鍬，竹筒等により漁獲される。

77　マアナゴ　NS(cc)

Dist. 北海道，本州，四国，九州，朝鮮

B. L.　９０cm

アナゴ（川尻），ダボ（大洗），ハナダレ（波崎），ハモ（県下一円）

アナゴは穴子で，海底の砂泥中にもぐる習性よりでた名である。東京，壱岐，大村湾，淡路福良，鳥羽，富山県新湊，富山でもアナゴと言う。ダボとはマアナゴの大きなものを指し，貪食で容易に漁獲されるので，おろかものの意味でダボと言う。ハナダレはレプトセファルス期のものを言う。ハナダレとは鼻垂れの意で，子供をののしる語で，ウナギの幼魚を意味する。ハモは北海道，東北地方，山陰地方，青森県鮫，富山県，新潟県，福井県（小浜），兵庫県（香住・但馬），岩手県，宮城県（気仙沼）で言う。ハモにその形が類似しているため名付けられた。北日本にはハモはほとんど分布しない。標準和名のマナアゴは直穴子で，三崎，東京市場，壱岐で言われる。本県では底曳網，延縄等で漁獲され「すし」の材料となる。

78　ギンアナゴ（トビアナゴ）　S(+)

Dist. 茨城県，新潟～紅海，アフリカ，オーストラリヤ，ポリネシヤ，ハワイ

B. L.　１m

キツネハモ（那珂湊），ギンアナゴ（川尻），ギンハモ（大洗）

頭部の形態キツネに似た感じなのでキツネハモと言う。ギンアナゴは標準和名で東京，長崎で言い，体色より出た名である。ギンハモもまた同じである。

79　ハモ　S(+)

Dist. 茨城以南，朝鮮，台湾，支那海，フイリッピン

B. L.　2 m

アナゴ（那珂湊）

アナゴは穴子でハモがアナゴに似ているためにつけられた名である。標準和名のハモはハム（食む）より転化したもので，鋭い大きな歯があってかみつくので，この名がある。夏美味で，関西では特に賞味する。本種は前種のマアナゴ，ギンアナゴとともに機船底曳網と延縄で漁獲される。

80　ウツボ　S（rr）

Dist. 茨城県以南，フイリッピン

B. L.　80 cm

ツボ（大洗）

ツボはウツボの略。標準和名のウツボは関西，紀州各地，高知市，鳥羽で言う。ウツボは昔，武士が矢を入れて腰に帯び太い筒で，この筒に多少類似するためウツボと称した。

81　メダカ　NS（cc）

Dist. 本州北部以南，本邦各地，朝鮮西南部，中国，台湾

B. L.　4 cm

ギンコ（那珂湊），ギンメ（結城郡絹川村久保田），ザコ（新治郡藤沢村東町・真壁郡古里村桑山・水戸市須和），ザゴ（真壁郡上野村上野），ザコッコ（岩瀬町久原），ザッコ（筑波郡島名村・下館市・石下町新石下・山川村今宿・西豊田村仁江戸），ジャマ（友部），タンボメダカ（久慈浜），ハナカケザッコ（―），ピンカコ（茨城町中石崎），ピンタコ（茨城町中石崎），ピンピンザコ（水戸市緑岡），ペンペン（常澄村小泉・下入野・茨城町下石崎・本遠西），ペンペンザコ（茨城町下石崎・本遠西），ペンペンザッコ（夏海村神山・水戸），ペンペンザッコメ（大洗町神山・那珂郡），ペンペンダコ（茨城町三条・常澄村下入野），メザカ（江戸崎・竜ケ崎・君原・大宮・八原），メザコ（水戸・竹原村馬場・木崎村門部・西豊田村仁江戸），メザコメ（那珂郡）メサッカ（奥野村），メザッカ（西小沢村仲内田・竜ケ崎・大宮・長竿・八原・川原代），メザッコ（石塚町那珂西・西茨城郡・真壁郡川西），メザッコメ（岩船村高久・那珂郡），メタガ（多賀郡），メダカ（那珂湊・太田），メダッカ（長竿・北相馬郡）メダッコ（石塚町上泉），メチヤコ（平磯），メンザカ（久慈郡），メンバッコ（笠間）

ギンコ・ギンメは体色より生まれた名。ギンメは高崎市・山口県，大阪府でも言う。ザコ・ザゴ・ザコッコ・ザッコは雑魚の意。ザコは東京・栃木・長野・富山・奈良・岡山・福岡・佐賀・熊本・宮崎・鹿児島で，ザゴは栃木で，ザコッコは埼玉県で，ザッコは岩手・秋田・山形・福島・栃木・埼玉・千葉・静岡・新潟・長野・愛知・富山・岐阜・島根・福岡・佐賀・熊本・宮崎で言う。ジャマはジャミより転化したもので，ジャミは弱いものとか，メダカとかイワシ類の稚魚の意味がある。静岡・山口で言う。タンボメダカは水田に多いので名付けられた。ハナカケザッコは意味不明。ピンカコ，ピンタコ，ピンピンザコは網ですくうとピンピンはねるので名付けた。ピンピンは徳島，ピンピンコ，ピンピンチャコは島根で言う。ペンペンザコ，ペンペンザッコ，ペンペンザッコメ，ペンペンダコもピンピンザコ，ピ

ンタコより変化したものである。メザカ，メザコ，メザコメ，メサッカ，メザッカ，メザッコ，メザッコメ，メンザカ，メチャッコは眼に特徴のある雑魚の意である。

メダカ，メタガ，メダッカ，メダッコは眼が頭の高い位置にあることを表わす。メンパッコは眼に特徴のある小さい魚の意である。

メザカは東京，神奈川，埼玉，千葉，群馬，栃木，福島，新潟，福岡，佐賀，長崎，熊本で，メザコは栃木，福島，山梨，長野，福井，石川，福岡，大分，鹿児島で，メザッカは千葉，栃木，静岡，福岡で，メザッコは岩手，山形，栃木，埼玉，千葉，神奈川，新潟，静岡，長野，福岡，佐賀，長崎で，メダッカは栃木，千葉，静岡で，メダッコは岩手，福島，群馬，神奈川，長野，福岡，長崎で，メンパッコは静岡でも言う。標準和名は東京方言であるが現在は全国的に通用する。

本県ではメダカの方言が３１種ある。辛川十歩著の全国メダカ方言集には本県のものは２０種採集されたが，本報告では１１種新に加えたことになる。これはメダカの全国方言 2,１７０種の 1.４％に当る。

82　ダツ　NS(+)

Dist. 北海道以南本邦各地および朝鮮

B. L.　1m

アオボネ（那珂湊），ダツ（久慈浜）

アオボネは青骨の意で骨が青いことを意味する。国府津でもアオボネと言う。標準和名のダツ東京，東海道の呼名である。ダツは里芋を干した芋がらの意で，この魚の形の細長いこと芋がらに似たために名付けたものである。

83　サンマ　N(cc)

Dist. 千島占守島から九州および朝鮮，アメリカ西海岸

B. L.　４０cm

サンマ（県内一円）

標準和名のサンマは，大言海には狭真魚（サマナ）の音便約であろうとしている。細長い魚を意味する。サンマは関東，東北地方の呼名であるが，現在は全国的に広まった。昭和２３年頃までは流し刺網で漁獲されたが，昭和２４年以後，火光利用により電気を利用してサンマ棒受網漁業に転換し漁獲量が増大した。

84　クルメサヨリ　S(c)

Dist. 霞ケ浦，荒川，名古屋，有明海，朝鮮釜山より西口統まで

B. L.　２０cm

サイレンボ（水戸・涸沼・那珂湊・霞ケ浦・北浦），ヨド（霞ケ浦・北浦・水戸），サヨリ（涸沼・那珂湊・県下一円），モサヨリ（霞ケ浦・北浦・水戸）

サイレンボは細魚の意，ヨドは延喜式に出ているサヨリの古名でヨリト，ヨロトよりヨロヅ，ヨドロ，ヨドと転化し，いずれも，たくさん群をなして遊泳する魚の意で，ヨリ，ヨロズは寄るとかたくさん

の意味である。モサヨリは藻サヨリで水藻の繁茂する水域にすむサヨリを表わす。標準和名のクルメサヨリは，この魚が九州筑後川に多いので，その中流にのぞむ久留米市にちなんで，クルメサヨリと命名したものであろう。

方言ではサヨリとクルメサヨリを区別しない。サヨリは海産で，クルメサヨリは汽水産でサヨリより小形である。

サイレンボ，ヨド，モサヨリの方言は本県のみである。サヨリは江戸時代よりの呼名で，越前のサイヨリより転化したもので，たくさん群をなす細長い魚の意をあらわす。

85　サヨリ　NS（cc）

Dist. カラフト，樂間，北海道以南台湾，朝鮮全沿岸

B. L.　40 cm

サイランボ（平磯），サイレンボ（那珂湊・久慈浜），サヨリ（涸沼・那珂湊・川尻・県下一円），セイランボ（平磯）トガマス（大津）

サイランボ，サイレンボ，セイランボはいずれも体の細い魚の意であり，サヨリの意味は前述のとおりである。サヨリは富山，京都，島根の方言である。トガマスは口先のとがったカマスの意である。涸沼川では刺網で漁獲される。

86　トビウオ　S（c）

Dist. 北海道以南太平洋沿岸各地

B. L.　35 cm

ツバメウオ（大洗・水戸・那珂湊・川尻），トビ（那珂湊），トビウオ（川尻・県下一円），トビオ（大洗・久慈浜），トビヨ（大洗・大津）

いずれもこの魚の海面上を飛行する習性より名付けられたものである。島根西部にても古くよりツバメウオと言う。東京，堺にてもトビと言う。トビウオと言うところは，仙台，能登，新潟，金沢，福井，東京，大阪，高知，宮崎，鹿児島，富山である。トビオは本県だけ，トビヨは別府でも言う。本県では延縄で漁獲される。

87　タカクラダツ　S（rr）

Dist. 千葉県北条，愛知県三谷，高知，Tungsai Is.（中国）

B. L.　12 cm

ホトトギス（那珂湊）

ホトトギスは，この魚が骨ばかりの魚に見えるので，名付けたものである。標準和名のタカクラダツは田中博士の命名である。

88　キンメダイ　S（r）

Dist. 相模灘，駿河湾，熊野灘，高知沖，鹿島灘

B. L.　50 cm

キンメ（久慈浜）

キンメは金目の意で，眼が金色をしている。標準和名のキンメダイも同じ意味である。

キンメは東京，三崎で，キンメダイは三崎，東京，小田原でも言われる。

89　ギンメダイ（ギンメ）　S（r）

Dist. 本州中部以南に多く，底引で漁獲，やや深所に生息。

B. L.　５０cm

アゴナシ（久慈）

下顎が上顎に比べて薄いので，かく言う。高知，三崎，沼津でもアゴナシと言う。標準和名のギンメダイは称呼地は不明。三崎では単にギンメと言う。眼の色が銀色をしているので，かく言う。ギンメは三崎の方言である。

90　マツカサウオ　S（rr）

Dist. 本州中部以南，フイリッピン～南アフリカ

B. L.　１６cm

イシダイ（水戸）

うろこが大きく堅く，全体の感じが石のようなのでイシダイと言う。本県特有の方言である。標準和名のマツカサウオは大きな堅いうろこにおおわれた状態がマツカサのようなので名付けられたものである。マツカサウオと称するところは，東京市場，富山県魚津・生地，神奈川葉山，長崎である。

91　マトウダイ　S（＋）

Dist. 茨城県以南，フイリッピン～南アフリカ

B. L.　５０cm

カガミダイ（那珂湊・久慈浜・川尻），ビンダイ（大洋村上島・大野村中野），マツダイ（大洗・那珂湊・久慈浜）

体が平らたく卵円形で，体の中央に黒い円い紋があり，うろこは小さく皮下にかくれ，体色は銀灰色である。カガミダイはその形態体色より名付けられたもので，宮城県気仙沼，福島県小名浜，兵庫県佐野・高砂でも言う。ビンダイのビンは点の意で，体側に黒点のあるタイという意味である。本県だけの方言である。マツダイはマトダイより転化したもので，マトダイは福井県小浜・三国，岡山県高梁，宮崎県油津で言う。本県へはこれらの地方から伝わったものであろう。標準和名のマトウダイは馬頭ダイとの解訳もあるが，的ダイすなわち体側中央の黒い円点が矢の的のようなので名付けられたとするのが適当であろう。

92　カガミダイ　S（＋）

Dist. 茨城県以南，ハワイ，オーストラリヤ，ニュージランド

B. L.　７０cm

アゴナシ（大野村中野・大洋村上島），ギンダイ（久慈浜）

その形前種のマトウダイに似て卵円形，体色銀灰色で不規則な褐色斑がある。アゴナシはこの魚の下顎が上顎に比べ薄いために付けられた名である。ギンダイはその体色より名付けられたもの。富山県生地・新湊でも言う。標準和名のカガミダイは東京方言カガミより変化したものであろう。標準和名カガミダイの意味は前種の同じく，その体形，体色より名付けられたものである。

93　アカマンボウ（マンダイ）　S（r）

Dist. 太平洋および大西洋の温帯および熱帯の外洋に広く分布する。

B. L.　2m

マンダイ（水戸・大洗・那珂湊）

形は卵円形，体色は背は青紫色で赤味があり腹は赤く，体側一面に銀白色の斑点があり美しい。遠洋マグロ延縄でとれる。マンダイは東京，三崎の名。体形がマンボウに似ているので，かく言う。標準和名のアカマンボウは東京で言う。マグロ延縄漁業で漁獲される。

94　ボラ　S(cc)

Dist. 世界各地の温熱帯

B. L.　80cm

イナ（波崎・涸沼・那珂湊），イナコ（涸沼），オボコ（涸沼川大場），コマンジャク（県下一円），スバ（土浦），チャンキ（大洗），ニサイゴ（那珂湊），ボラコ（波崎），ボラ（県下一円），ヒカリコ（霞ケ浦）

イナは体長30cm以下の若魚をさし，その意味は稲魚で，この魚は川から水田にも入るので，この名があるとの説がある。東京，浜名湖，高知県，紀州，小名浜，広島県，堺でもいう。イナコは体長3～18cmぐらい。東京の名である。オボコは幼児の意で，体長3～18cmぐらいをさす。浜名湖，東京で言う。コマンジャクは体長15cm以下の幼魚を指し，コマンジャコより転化したもので，関西ではメダカのことである。コマンはコマメ（小豆），ジャコはシャコ，シャコは幼女の意で，ボラの幼魚を意味する。スバはスバシリ（州走り）の略で，体長3～9cmぐらいのものをさし，河海の浅瀬などで群遊しているボラの稚魚が物に驚いて逃げ去る状態より，かく名付けられたものである。福島県小名浜でもスバと言い石川，兵庫，福岡ではスバシリと言う。

チャンキはチャッケイ（小さい）とかチャッコイ（小さい）と関連がありそうだ。すなわちボラの幼魚を意味する。チャンキのキは魚を意味するものと推測している。魚の方言の語尾にキをもつものが相当あることは注目してよい。ニサイゴは二歳子で体長20cm前後のものをさす。宮城県角田，浜名湖，三重県ではニサイと言う。ボラコは体長3cmぐらいのものを言う。ボラは体長30cm以上のものを言う。ヒカリコは体長3cm以下のもので，体色が銀色に光るので，かく言う。ボラの意味は不明。

95　メナダ　NS(+)

Dist. 北海道以南，本邦各地

B. L.　1m

ギンボラ（那珂湊），メナ（那珂湊），メボラ（涸沼）

ボラに似ているが体が細長く，体色がボラよりも白っぽく，口と眼が赤い。体色が銀白色をしているところからギンボラと言い，これが幼魚をメナと言う。メボラは眼が赤く，ボラと異なるので，メボラと言う。涸沼では体重1.5～1.9Kg以上のものを称す。那珂湊付近ではボラとメナダは混生するが，釣人は，はっきり区別する。

96　アカカマス　S(c)

Dist. 茨城県～長崎，台湾，中国

B. L.　５０cm

カマス（久慈浜）

一般にカマス類をすべてカマスと総称する。カマスの意味は不明。標準和名のアカカマスは田中博士の命名。長崎，高知でも言う。体色は黄褐色で，尾びれが黄味をおびる。味がよく，他のカマスより値が高い。

97　ヤマトカマス　S(c)

Dist. 茨城県以南の各地沿岸，台湾，セレベス

B. L.　６０cm

カマス（大洗・那珂湊・大津・平潟），ミズカマス（久慈浜）

前種より体がやや細く，うろこがこまかい。体色は背部は青褐色である。ミズカマスは体に水分が多いので，かく言う。味はアカカマスに劣り，値も安い。

98　カムルチー　N(cc)

Dist. 揚子江より南満，シベリヤ，朝鮮

カモチン（霞ケ浦・北浦），ライギョ（県下一円），ライヒ（北浦新宮），ランギョ（水戸市平須・友部・岩間・須和・東海）

この魚に２種あり北方系と台湾原産の南方系である。本県のものは北方系である。南方系は台湾ではライヒー，満州国当時に邦人はこれをライと言った。ライギョ，ライヒ，ランギョはこれからでている。愛知，滋賀，福岡，熊本でもライギョと言う。標準和名のカムルチーは朝鮮名である。朝鮮にはカムルチーはヘビとナマズの合の子であるという説話がある。

99　マグロ　NS(+)

Dist. 世界の温熱帯に広く分布，北は千島，日本海に分布

B. L.　３m

ガンバ（会瀬・川尻），クロマグロ（大津），シビ（大津），チュウブ（那珂湊），チュウボ（大洗），デンブク（大洗・那珂湊），ヒラメジ（会瀬），メジ（那珂湊・川尻・大津）

ガンバは体重８００～1,６００g の小さいマグロを言う。その意味不明。クロマグロは大型のマグロを言い，背が青黒色なので，かく言う。シビは古い魚名で，古事記にある。その意味不明であるが，その名は北は青森より南は九州の各地に残っている。青森県八戸・鰺沢，岩手県山田，宮城県気仙沼，秋田県金浦，福島県小名浜，神奈川県真鶴・横浜，新潟県出雲崎，富山県魚津，石川県七尾，静岡県内浦，愛知県名古屋市場，三重県浜尾・尾鷲，京都府，兵庫県由良・播摩室津，和歌山県，岡山県乙浦・金浦，山口県江崎・仁崎・由宇，徳島県三岐田・小松島，高知県，熊本県富岡・牛深，福岡県などである。チュウブとチュウボは中くらいの大きさのマグロの意で，体重２０～３０Kgのマグロである。那珂湊ではメジより大きなマグロを言う。

本県の稲敷郡では花のつぼみをデンボと言う。デンブクとは未成魚を意味する。

デンブクは体重４～８Kgの若マグロで，デンボカ→デンブカ→デンブクと変化し，語尾のカは魚を意味する。三重県では６cmぐらいのボラをデンブク，青森県では３０cm以下のブリをデンブ，岩手県ではブリの子をデンブと言う。メジはマグロの小さいものを言う。メは小さいことを意味する。青森県八戸・深浦，岩手県，宮城県気仙沼，福島県小名浜，新潟県，富山県新湊，石川県七尾・金石，静岡県でも言う。また静岡県では２～４Kgのマグロをメジカと言う。江戸時代７０cm以下のマグロをメジカと称した。メジカは小さな魚の意味で，那珂湊ではデンブクよりも大きいマグロを言う。標準和名のマグロはその背部が青黒色なので名付けられたもので，東京都，高知県，和歌山県，富山県で言う。またマグロ類の総称にも用いられる。マグロ延縄漁船により多く漁獲される。

100　ビンナガ　S（cc）

Dist. 世界の温熱帯に広く分布。東北地方以南に多い。

B. L.　1m

ビンチョウ（大洗・那珂湊），ビンナガ（那珂湊）

岩手県，宮城県気仙沼，福島県小名浜，千葉県夷隅地方・銚子・木更津・小湊・安房，神奈川県真鶴，徳島県牟岐，宮崎県油津・宮崎・折生迫・門川，鹿児島串木野でもビンチョウと言う。長崎県，宮崎県門川，鹿児島県阿久根ではビンナガと言う。福岡県ではヒレナガと言う。このマグロは他のマグロに比べ胸びれが長いので，ヒレナガまた転音してビンナガと言われ，ビンチョウとも言われる。マグロ延縄漁船により多く漁獲される。

101　メバチ　S（＋）

Dist. 世界の温熱帯に広く分布。北緯３６°あたりが分布の北限，日本海に分布しているか不明。

B. L.　2m

チュウボ（那珂湊），バチ（那珂湊），メボ（那珂湊）

チュウボは中くらいの大きさ体重１２～１６Kg程度のメバチを言う。バチは体重２０Kg以上のものを言う。岩手県，宮城県，福島県小名浜，千葉県，神奈川県真鶴・横浜，福岡県下田，愛知県名古屋，徳島県牟岐，高知県でも言う。メボはメバチのチボの意で，メバチの小さいもの体重４～８Kgのものを言う。標準和名のメバチは眼が大きい意で，東京都，東北地方，東海地方，高知県でも言う。マグロ延縄漁船により漁獲される。

102　ハガツオ（キツネガツオ）　S（r）

Dist. 大西洋，印度洋および太平洋の温帯，本邦では茨城県以南，特に九州に多い。

B. L.　1m

キツネ（大津），シマガツオ（大洗・久慈浜），ハガツ（大洗・久慈浜），ハガツオ（大津）

頭の形，口先のとがっているところキツネに似るのでキツネと言う。神奈川県真鶴，静岡県，愛知県名古屋魚市場，三重県，大阪府，島根県浦郷，山口県江崎・阿川・仙崎，徳島県牟岐・鞆奥，高知県でも言う。シマガツはらん青色の背部に約６条のあきらかな黒色の縦じまがあるので名付けられたものである。岩手県山田，鳥取県浦富・泊でも言う。ハガツはハガツオの略。この魚は形カツオに

似て口蓋骨にやや強い１列の歯があるので，かく言う。標準和名のハガツオは三重県，高知県，岩手県でも言う。ナダガツオの一本釣，曳釣で漁獲される。

103　スマ（ヤイト）　S(＋)

Dist. 茨城県以南，台湾，ハワイおよび西南太平洋に分布し，日本海ではきわめてまれ。

B. L.　１m

ワタナベ（大津），チボ（平磯・那珂湊）

ワタナベは人名である。ワタナベは渡辺であり，胸鰭の下，付根付近に３個の小黒斑紋があり，この斑紋が渡辺家の紋と同じであるためにつけられた名である。ヤイトは静岡，三重県，兵庫県，大阪府，山口県江崎・仙崎，徳島県鳴戸，高知県，宮崎県油津・宮崎・折生迫でも言う。ヤイトは灸のあとのことで，この魚は胸部に１～７個の円い小黒点があるので，この名がある。標準和名のスマは東京都，高知県，宇和島で言い，その意味不明。ナダガツオの一本釣，曳釣で漁獲される。

104　カツオ　S(cc)

Dist. 全世界の温熱帯に広く分布。本邦では北海道以南，日本海に少ない。

B. L.　１m

オサムライ（那珂湊），カツ（那珂湊・大津），カツウ（那珂湊・水戸），カツオ（那珂湊・県下一円）

カツオは釣りえのイワシを，釣手の隙を見て，すばやくとって逃げさる様子がオサムライに通ずるところがあるので，オサムライと言う。カツ，カツウはカツオより転音せるもので，岩手県，宮城県気仙沼，福島県小名浜，千葉県夷隅地方，愛知県でもカツと言い，千葉県小湊・銚子・安房・木更津，沖縄でもカツウと言う。標準和名のカツオは古い名で万葉集にでている。カツオはカタウオ（堅魚）の意で，堅いカツオブシを昔から保存食として利用したので，この名がある。この名は全国的に通用する。カツオ一本釣漁船で多く漁獲され沿岸の小型船は一本釣と曳釣で漁獲する。

105　サワラ　NS(c)

Dist. 北海道南部以南，朝鮮，北中国，オーストラリヤ

B. L.　１m

サワラ（大洗・那珂湊・久慈浜・会瀬）

サワラは全国的の名で，沖縄でも言う。その意味不明。

106　ヒラソウダ　NS(＋)

Dist. 北海道以南～フイリッピン，ハワイ，北米西海岸，地中海，大西洋

B. L.　４０cm

ソウダ（那珂湊），ソウダンボ（那珂湊），ロウソク（大洗）

ソウダは千葉県夷隅地方・銚子・木更津・小湊・安房，．愛知県，神奈川県でも言う。その意味不明。ソウダンボはヒラソウダの小型のもの。青森県八戸でも言う。ロウソクはヒラソウダの小型のもので，体の形が細長いので，この名がある。神奈川県小田原・真鶴，富山県魚津，徳島県牟岐・小松島で言う。標準和名のヒラソウダは東京都，千葉県の名で，体がやや平たい。次のマルソウダと共に

一本釣と曳釣で漁獲される。

107　マルソウダ　NS(+)

Dist. 北海道以南，フイリッピン，Dutch East Indies

B. L.　35 cm

ソウダ（那珂湊），ソウダンボ（那珂湊），チボ（久慈浜・平磯・那珂湊），ロウソク（大洗）

ソウダ，ソウダンボと言いヒラソウダと区別してない。チボはマルソウダの小型のもの，チボとは子供または赤子の意である。千葉県安房，神奈川県，福島県小名浜でも言う。ロウソクと言いヒラソウダと区別しない。島根県西部，高知県，宮崎県油津でも言う。標準和名のマルソウダは東京都，神奈川県の名で，ヒラソウダよりやや小さく，体がまるく細い。

108　ゴマサバ　S(+)

Dist. 茨城県以南に多く，北海道に少ない。朝鮮，中国，台湾

B. L.　42 cm

アオ（久慈浜），アオモノ（久慈浜・那珂湊），ゴマサバ（久慈），サバ（那珂湊・大津・県下一円）

背部が青色なので，アオ，アオモノと言う。体の腹側に小黒点が散在しているのでゴマサバと言う。この名は和歌山県の方言である。これを標準和名に採用したのである。サバは和歌山県，沖縄で言われ，サバのもつ細かい歯を意味する。

109　マサバ　NS(cc)

Dist. カラフト以南～台湾，フイリッピン

B. L.　50 cm

アオ（久慈浜），アオモノ（久慈浜・那珂湊），サバ（那珂湊・大津・県下一円），ヒラサバ（川尻），ホンサバ（久慈浜），ビンサバ（会瀬）

アオ，アオモノ，サバと言い，前種と区別しない。ヒラサバは体が側扁し，左右に平らたいので，かく言う。静岡県下田，愛媛県南宇和，高知県，鹿児島県枕崎でも言う。ホンサバはゴマサバと区別した名で，山口県江崎・阿川・油田・由宇，長崎県，大阪府，関東でも言う。ビンサバはマサバの小さいものを言うのではあるまいか。標準和名のマサバはゴマサバと区別するために魚学者によって付けられた名である。イワシまき網と「はいから釣」により多く漁獲され定置網でも多い。

110　マカジキ　S(cc)

Dist. 北海道以南，台湾，南洋，ハワイ，カリフォルニヤ

B. L.　3 m

オカジキ（大洗・那珂湊），ナイランボ（磯崎），ホクカジキ（大洗），ホンカジキ（大洗）

オカジキはメカジキに対して言われたもので，メカジキよりも味も価もすぐれたものであることを意味する。福島県小名浜，山梨県甲府でも言う。ナイランボはもりで突くとき手元がぶるぶる地震のように震えるので，この地震を起す魚めという意味で名付けられたのではあるまいか。千葉県でも言う。同系統の方言は和歌山県，高知県のナイラギ，ナエラギ，高知県のナイラゲ，大阪府堺のノウラ

ギ，和歌山県，三重県のノオラギがある。ホンカジキは他のカジキ類と区別するためで，カジキ類中最も味の良いことを意味する。標準和名のマカジキは神奈川県三崎の方言である。次のメカジキと共にマグロ延縄漁業により漁獲される。

111　メカジキ　S(cc)

Dist. 全世界の温熱帯に広く分布

B. L.　3.6m

メカ(大洗)，ラクダ(大洗)

メカはメカジキの略。メカと称するところは，青森県八戸，岩手県，宮城県渡波・気仙沼，千葉県夷隅地方・小湊・安房・銚子・木更津，愛知県名古屋市場，宮崎県油津・門川，鹿児島県串木野である。味はややマカジキより劣る。カジキはカジキトオシの略。堅くて鋭い長い上あごで舟のカジの板を貫ぬくということを意味する。ラクダは大きくても役に立たないことを意味する。これは味がマカジキより劣るので，付けられた名である。神奈川県，千葉県でも言う。標準和名のメカジキはオカジキに対する名で，東京都で言う。

112　アブラソコムツ　NS(rr)

Dist. 深海魚，太平洋，大西洋，Madeira，南アフリカ，ハワイ，ニュー・ソース・ウェイルス，Lord Howe Is.，カリフォルニヤ，ペルー，キューバ，日本(福島，茨城，千葉，三重，高知)

B. L.　1m

アブラムツ(久慈浜)，アブラ(那珂湊)，アブラメ(那珂湊)

あぶらが強く，食べると下痢することがよくある。脂肪が多いのでアブラ，アブラメと言い，多少形がムツに似たところもあるので，アブラムツと言う。標準和名のアブラソコムツは脂肪の多い形が多少ムツに似たところのある底魚の意味である。マグロ延縄にかかり，1尾15～40Kgある。次のバラムツと共にマグロ延縄漁業の副産物として漁獲されている。

113　バラムツ　S(r)

Dist. 南アフリカNatal，茨城県，銚子沖，駿河湾戸田，三重県尾鷲沖，土佐沖，メキシコ湾

B. L.　3m

アブラ(那珂湊)，アブラメ(那珂湊)

脂肪分が多いのでアブラ，アブラメと言う。これも食べると下痢を起しやすい。標準和名のバラムツは体表面全体にバラの棘のように棘があるためであろう。

114　クロタチカマス　S(rr)

Dist. 太平洋，大西洋およびインド洋の暖海の深部に広く分布する

B. L.　1.2m

ガランチョ(那珂湊)

歯が鋭く，手をふれると手が切れる。頭を持って振ると歯と頭だけが残り，身はとれてしまうので

ガランチョと言う。前種と共にマグロ延縄漁業によって漁獲される。

115　タチウオ　S(+)

Dist. 茨城県以南，ことに瀬戸内海，朝鮮に多い。中国，台湾，フイリッピン，東インド諸島，オーストラリヤ，インド，紅海，アフリカ東海岸，大西洋の暖海区域。

B. L.　1.3 m

ギンダチ（那珂湊），タチノイ（大洗）

ギンダチは銀大刀のような魚の意，鳥取県泊でも言う。島根県恵曇ではギンタチと言う。タチノイは大刀の魚の意で，沖縄ではタチヌイユと言う。標準和名のタチウオは関西，九州の名である。シラス曳網で漁獲される。

116　シイラ　S(r)

Dist. 茨城県以南，支那海，台湾，南洋諸島，東インド諸島，ハワイ，カリフォルニヤ，地中海，大西洋

B. L.　1.8 m

カキハバ（久慈），カジアバ（大津），カジハバ（那珂湊・川尻・大洗・久慈），カジヤバ（大洗），シイラ（那珂湊・川尻・大津），シイラア（川尻・大津），シイラギ（那珂湊），マンビキ（大洗・那珂湊・久慈），ヒイラ（平磯・那珂湊）

カキハバは５Kg以上のもの，カジアバは大型のもの。カジハバは川尻では３Kg以上のもの，カジヤバは大型のもの，カキハバ，カジアバ，カジハバ，カジヤバ等は船の舵のように平たいためではなかろうか。シイラは標準和名。シイラは体が平らなためにつけられた名ではなかろうか。徳川時代よりの名で，全国的に通用する。シイラアは大津では小型のもの，川尻では大小全般に言う。シイラギは大型のもの，意味不明。マンビキは万匹水面近くを群泳することを意味する。岩手県，宮城県気仙沼・女川・渡波，福島県小名浜，千葉県勝浦，愛知県名古屋市場，和歌山県田辺・湯浅，愛媛県，福岡県，長崎県，熊本県牛深・熊本，大分県蒲江，宮崎県宮崎・折生迫・油津，鹿児島県種子島東長島・串木野でも言う。一本釣で漁獲される。

117　シマガツオ　S(r)

Dist. 太平洋，大西洋，インド洋，地中海，本邦では太平洋岸茨城県以南に多い。

B. L.　40 cm

エチオピヤ（那珂湊），クロモツ（那珂湊），シケダイ（波崎）

サンマ流網が使われたころ，水深３尋ぐらいのところで，シマガツオが２～３尾かかることがあったという。当時はこれをクロモツと呼んだ。体色が黒いためである。シケのときマグロ延縄でよく漁獲されるので，シケダイと言う。昭和８～９年のころ，黒田正子がエチオピアの王族にお嫁に行くとのニュースがあってから，この魚をエチオピアと呼ぶようになった。昭和１０年頃にエチオピアとイタリーが戦争した当時，我が国とエチオピアと親しかった頃に急に獲れ始め，東京市場や小売店に現われエチオピアなる言葉が流行し，色の黒い人をエチオピア又は略してピアーと呼ぶことが流行した。

エチオピヤなる名は東京市場より本県へ入ってきたもので，神奈川県大磯・三崎，東京市場でも言う。標準和名のシマガツオは余り通用しない。

118　ムロアジ　S(r)

Dist. 茨城県以南，支那海に多い

B. L.　４０cm

ムロアジ（久慈浜・川尻）

標準和名のムロアジは兵庫県，愛媛県で昔言われ，一般に通用する。側線の直走部に堅い棘状のうろこがあるため，ムロアジと言う。ムロは棘を意味する。

119　マアジ　NS(cc)

Dist. 本邦各地の沿岸，朝鮮の東北部以南

B. L.　３０cm

アジ（県下一円），マアジ（久慈浜）

一般的にアジと言う。その意味不明。標準和名のマアジは和歌山県，高知県で他のアジ類と区別して呼ぶ名である。イワシまき網で漁獲される。

120　カイワリ　S(+)

Dist. 金華山および能登半島から南に多く，沖縄，バタビヤに分布

B. L.　４０cm

マルアジ（大洗）

マアジに比べ体高高く，側面より見ると，丸く見えるので，この名がある。標準和名のカイワリは東京の名，その意味不明。

121　ヒラマサ　S(r)

Dist. 本邦暖海に分布するが，太平洋では金華山以北，日本海沿岸では津軽海峡以北には少ない。黄海に多い。

B. L.　１m

シラマサ（平磯）

シラマサはヒラマサのこと。ヒラマサは東京都，高知県で言う。その意味不明。一本釣で漁獲される。

122　ブリ　NS(cc)

Dist. 北海道～台湾，朝鮮東岸

B. L.　１m

イナダ（県下一円），サンバク（大洗・那珂湊・久慈浜・大津），ションベンブリ（県下一円），タンゴブリ（那珂湊・久慈浜），ブリ（久慈浜），ワラサ（久慈浜），ワカシ（平磯・久慈浜），ワカナ（大洗・那珂湊・久慈浜）

ブリの成長段階名を久慈では次のように呼んでいる。

ワカナ	２００～２３０Kg
イナダ	1.1～1.5Kg
サンバク	1.9～2.6Kg

ブ　　リ	3.8～4.9 Kg
タンゴブリ	7.5～11.3 Kg

会瀬では次のように呼び取引きされている。

ワ　カ　ナ	400 g 以下
イ　ナ　ダ	1 Kg以下
大イナダ	1～1.5 Kg
ワ　ラ　サ	1.5～3 Kg
小　ブ　リ	3～4 Kg
中　ブ　リ	4～8 Kg
大　ブ　リ	8 Kg以上

大洗では次のように呼び取引きされている。

ワ　カ　ナ	500 g 以下
イ　ナ　ダ	500 g～1.2 Kg
ワ　ラ　サ	1.2～5 Kg
ブ　　リ	6～10 Kg

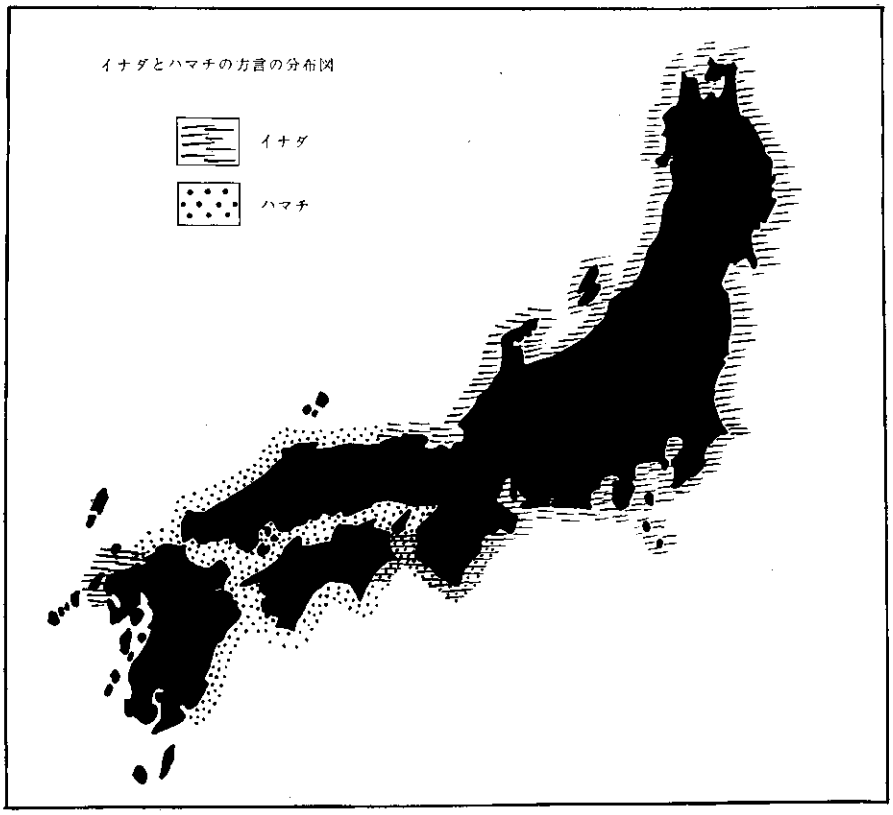
ワカナは若魚の意で，宮城県，兵庫県，和歌山県，島根県，山口県，高知県などでブリの幼魚を言う。イナダはワカナより大きなブリの幼魚を言う。イナは砂，もみの意で，小なるものを意味する。ダは意味不明。静岡県，岩手県，宮城県，秋田県，神奈川県，新潟県，福井県，三重県，京都府，和歌山県でも言う。サンバクはブリの小形のものを言う。サンバは小形の船を意味し，クはカより転じたもので魚を意味する。ションベンブリは味の悪い夏のブリを言う。タンゴブリはブリの大型のものを言う。その意味不明。標準和名のブリは高知県，東海地方，東北地方，新潟県，東京都，富山県でも言い，一般的に通用する。その意味不明。ワラサはイナダよりも大きいブリを言う。その意味不明。東京都，東海地方，三重県浜島，伊豆内浦，伊勢湾などでも言う。ワカシはブリの幼魚で，福島県，東京都，千葉県，神奈川県でも言う。若子の意である。ワカナは若魚の意で，宮城県，兵庫県，和歌山県，島根県，山口県，高知県でもブリの幼魚を言う。関西では本県のワカシ及びワカナの大きさのものをモジャコと呼び，イナダの大きさのものをハマチと呼んでいる。近年，魚介類の蓄養殖が盛んとなり，モジャコを種苗としてハマチの大きさに養殖し出荷している。東京市場では静岡以西から入荷する養殖ものをハマチと呼んでいる。

イナダとハマチの方言の分布をみると図のとおり，イナダは太平洋側では青森県から和歌山県，徳島県まで分布し，日本海側では青森県から京都府まで分布がみられている。ハマチは太平洋側では三重県錦から宮崎県まで分布し，日本海側では兵庫県から九州の福岡県まで分布するほか，瀬戸内海全域に分布している。

三重県錦から和歌山県と徳島県ではイナダとハマチの混称（大きさにより区別がみられる。）がみられ，日本海側では兵庫県から福岡県を飛び越して，佐賀県にイナダの分布がみられることが特記さ

れる，或は徳川時代に和歌山県からの漁民の移住によってみられるものか詳らかではない。

前種と共にイナダ刺網，一本釣，曳釣，まき網，定置網等により漁獲される。



123　カンパチ　S(＋)

Dist. 東北地方～台湾

B. L.　1m

カンパチ（大津），ショウゴ（大津）

カンパチは東京で言われ，その意味不明。ショウゴは潮子の意で，神奈川県でも言う。富山県生地・新湊ではシオノコと言う。

124　クロアジモドキ　S(rr)

Dist. 本邦では極めてまれ，分布も明らかでない。茨城県～台湾，南支那海，東インド諸島，ハワイ，クイーンスランド

B. L.　60cm

ヒラアジ（久慈浜）

夏，久慈浜では小船で漁獲されることがある。体が左右に平らたいので，ヒラアジと言う。標準和名のクロアジモドキは田中博士の命名による。

125　メダイ　S(＋)

Dist. 茨城県，本州中部の太平洋側の深海に多い

B. L.　1 m

メダイ（川尻・大津），メテ（大津），モクズキ（大津）

眼が大きいのでメダイと言う。メテはメダイの略。モクズキは次のイボダイと同じである。一本釣により漁獲される。

126　イボダイ　S(+)

Dist. 松島以南，朝鮮南部，九州，東支那海

B. L.　25 cm

アゴナシ（平磯・大津・平潟），エボダイ（水戸），オボッチョ（大野），ボクズキ（大洗），モクズキ（久慈浜）

多少下顎が上顎に比べ小さいので，アゴナシと言う。エボダイはイボダイに同じ，東京都で言う。側線の起部に円い黒褐色斑がイボのようなので，エボダイまたはイボダイという。イボダイは標準和名で東京都，富山県氷見でも言う。オボッチョはぼんやりしているような魚の意で，頭部の形からくる感じが，そのようなので，かく言う。ボクズキは木付き，モクズキは藻付きで，いずれも流木や流藻についているこの魚の習性をあらわしている。

127　チョセンブナ　S(r)

Dist. 原産地中国および朝鮮，移殖され本邦各地に繁殖

B. L.　6 cm

トウギョ（土浦・木原・北浦）

昭和５年ごろより土浦付近に見られるようになり，一時はたくさん繁殖したが，その後少なくなり，最近多少見られるようになった。本種の雄は闘争する習性があるので，この名がある。標準和名のチョウセンブナは東京方言である。本種は東京都深川方面が大洪水のときに，岩崎家別荘に飼われたものが流出して，付近の小川や小溝で子供の手網にもかかるようになった。東京都ではチョウセンキンギョ・タイワンギンギョ・ジシンブナとも言った。

128　ハタンポ　S(r)

Dist. 茨城以南に多い

B. L.　15 cm

イシコチ（水戸）

イシコチの意味不明。標準和名のハタンポは和歌山県周参見のアタンポより転化したものであろう。その意味不明。

129　ヒメジ　NS(c)

Dist. 本邦各地沿岸，沖縄，台湾，中国，インド支那

B. L.　20 cm

ウミゴイ（川尻）

口に一対の黄色のひげがあり，形も多少コイに似ているので，ウミゴイと言う。熊本県富岡でも言う。標準和名のヒメジは三崎，神奈川県藤沢で言われ，その意味はアカジが赤色の魚というように，姫じは小さく愛らしい魚の意味である。

130　アカアマダイ　S(r)

Dist. 茨城県以南～台湾

B. L.　４５cm

アマダイ（那珂湊・久慈浜）

肉が甘味があってうまいので，アマダイと言う。標準和名で，関東，東海，近畿，四国の名である。

131　ハタハタ　N(r)

Dist. アラスカ，カムチャッカ，千島，カラフト，北海道，東北沿岸，山陰地方

B. L.　２６cm

ハタ（大洗）

ハタはハタハタの略。標準和名のハタハタは秋田，山形，新潟，富山県で言われ，冬のはじめころ雷が鳴るとき大漁があると言われる。雷をハタタガミと言い，それと関係があるのでハタハタと言う。徳川時代に佐竹が水戸から秋田へ国替えになったとき常陸の海にすんでいたハタハタが秋田へ行ってしまい，常陸の海には殆んど生息しなくなったという説話がある。

132　イシダイ　NS(+)

Dist. 北海道以南本邦各地沿岸

B. L.　６０cm

シマダイ（県下一円）

幼魚は体側に７条の黒褐色の横帯があり，成長したものでも不明瞭ながら，この横帯が見られるのでシマダイと言う。青森県，岩手県，福島県，愛知県，新潟県，石川県，富山県，福井県，広島県，福岡県，北海道，関西でもシマダイと言う。標準和名のイシダイは東京三崎の名で，その意味不明。

133　イシガキダイ　S(r)

Dist. 茨城県以南，朝鮮，支那海

B. L.　４０cm

イシダイ（大洗），コモンダイ（大津）

体にやや大きい石塊状の褐色不正形の斑紋が密布しているので，イシダイと言う。また体側の斑紋よりコモンダイと言う。和歌山県白崎，兵庫県明石でも言う。標準和名のイシガキダイは三崎でも言い，体側の斑紋の状態より名づけられた名である。

134　チビキ　S(rr)

Dist. 茨城県以南の太平洋の深海，朝鮮南部，ハワイ，アラビヤ

B. L.　４０cm

アカムツ（水戸）

赤色で体形多少ムツに似たところもあるので，アカムツと言う。標準和名のチビキは兵庫県由良・福良・佐野・湊，愛媛県で言う。側線に沿って赤色の線があるのでチビキと言う。

135　チカメキントキ　S(+)

Dist. 茨城県以南各地，支那海，フイリッピン，ハワイ，New South Wales，クインスランド，セイロン，ボルネオ，Mauritius，アラビヤ

B. L.　50cm

カゲキヨ（大洗・久慈）

カゲキヨは景清で，平家物語や源平盛衰記にでてくる体躯肥大，剛勇無双の平家の荒武者悪七兵衛景清で，源平時代の華々しいよろい武者を，この魚の形態，色彩から感ぜられるので，この名がある。福島県，神奈川県，和歌山県でも言う。標準和名のチカメキントキは田中博士が命名されたもの。この魚はひれの棘が強く，眼は大きく開き，近眼のようで，体形丸く，体色赤く，いかにも強そうな感じのする魚で，チカメキントキまことに適切である。底曳網で漁獲される。

136　アカムツ　S(r)

Dist. 暖海性，茨城県以南のやや深海，北海道以南，朝鮮南部

B. L.　50cm

アカムツ（久慈浜），ノドグロ（久慈浜）

多少感じがムツに似ており，体色赤色なのでアカムツと言う。東京，富山県魚津でも言う。口内の皮膜が黒いのでノドグロと言い，太平洋よりも日本海の沖で多く漁獲される。新潟県，福井県，兵庫県，鳥取県，島根県，福岡県でも言う。

137　スズキ　NS(cc)

Dist. 北海道以南，本邦各地，朝鮮，台湾，支那海

B. L.　1.5m

スズキ（県下一円），セイゴ（県下一円），セッパ（那珂湊），ヒカリコ（霞ケ浦），フツコ（川尻・平潟），マメッパ（那珂湊），デキ（北浦）

スズキは体重700g（200匁）以上。スズキはスズカの音韻変化で，スズは端（ハシ）の意で，キは魚で，この魚は潮の動きによって，海に突き出た突端とか，防波堤の先端部の潮流の変化のある水域に集まるので，海岸の突端部によく遊泳する魚の意でスズキと名付けられたものである。セイゴはスズキの約400g（100匁）以下のものを言う。セーグは南頭国頭で小刀，セーゴは宮崎県椎葉で小刀を意味する。この魚の背鰭棘が鋭いので，この名がある。岩手県，宮城県，千葉県，神奈川県，静岡県，愛知県，三重県，和歌山県，徳島県，高知県，宮崎県，福岡県，長崎県，山口県，広島県，岡山県，島根県，鳥取県，福井県，石川県，秋田県でも，かく言う。セッパはスズキの約400～700g（100～200匁）ぐらいのものを言う。その意味不明。ヒカリコは光り子で，この魚の稚魚は銀白色で光るので，かく言う。フツコは東京方言で，セッパのことで，体重約400～700g（100～200匁）ぐらいである。その意味不明。この名は東京の釣師より入ってきたものである。マメッパは小魚を意味し，セイゴより小さい。霞ケ浦ではセイゴをデキと言う。東京都でも言う。

大洗ではスズキの大きさにより次のように呼び，取引きされている。

セ　イ　ゴ　　600g以下

小　　ス	600～900g
中ス　ズキ	900g～1.2Kg
大ス(スズキ)	1.2Kg以上

又，会瀬では次のように呼んで取引きされている。

セ　イ　ゴ	800g以下
フ　ッ　コ	800g～1.5Kg
ス　ズ　キ	1.5Kg

沿海では一本釣と定置網で漁獲される。

138　イシナギ　NS(r)

Dist. 本州中部および北部に多く，北海道に多産，釜山

B. L.　2m

オオウオ（大津），イシナギ（大洗・会瀬），スネヤ（県下一円），ニベ（那珂湊・久慈・大津），スネアイ（水戸），スミヤキ（大洗）

オオウオは大魚で，体長2mにもなる。富山県，山形県飛島でオオイオと言う。イシナギはこの魚の大型なものをさす。その意味不明。福島県小名浜，関東で言う。南島喜界島では海底の瀬のことをスネイという。イシナギは普通水深300～450m（200～300尋）の岩礁地に生息しているので，スネヤという。福島県小名浜でもいう。久慈では7Kg以上のイシナギをニベと言う。その意味不明。スネアイは海底の瀬にすむ魚の意。イシナギの幼魚を言う。スミヤキは炭焼の意，幼魚は体色が黒いのでかく言う。福島県小名浜でも言う。イシナギの肝臓を食べると全身は皮膚がむけ，食べ過ぎると中毒する。イシナギの肝臓は医薬品の原料となる。一本釣と定置網で漁獲される。

139　マハタ　S(c)

Dist. 大西洋，インド洋および西太平洋の熱帯に分布し，北は本州中部に至る。

B. L.　90cm

ハタハタ（久慈浜）

ハタは鱠の古語である。ハタハタの意は不明。福島県小名浜，愛知県名古屋市場でも言う。標準和名のマハタは東京都，神奈川県三崎の名で，ハタ類中美味なることをあらわす。

140　アラ　NS(+)

Dist. 北海道よりフイリッピンまで

B. L.　1m

アラ（久慈浜）

標準和名のアラは東京都，名古屋，新潟県，三陸，新発田，富山県で言われる。その意味不明。

141　ニベ　S(c)

Dist. 松島湾および富山湾以南，長崎

B. L.　60cm

イシモチ（県下一円），グチコ（大洗・那珂湊）

頭部に耳石を持っているために，イシモチと言い，紀州新宮・二木島，福島県小名浜でも言われる。グチコはニベの幼魚をさす。

142　イシモチ（グチ・シログチ）　S（cc）

Dist. 松島湾～朝鮮，支那海，東インド諸島，インド洋

B. L.　３０cm

イシナギ（久慈浜），イシモチ（那珂湊），グチコ（大洗），ハダカイシモチ（大洗），モチ（久慈浜）

イシナギの意味不明。頭部に耳石をもつのでイシモチと言う。三重県鳥羽，東京都，新潟県，神奈川県鎌倉，富山県で言う。この魚は釣りあげられると時にグーグーと鳴くことがあるので，この魚の幼魚をグチコと言う。ニベより体が銀白色で斑紋がないので，ハダカイシモチと言う。モチはイシモチの略。和歌山県粕浦ではモチウオと言う。刺網で漁獲される。

143　キス　NS（c）

Dist. 北海道以南，本邦各地，朝鮮，台湾，中国，フイリッピン，東インド諸島，アラビヤ

B. L.　４０cm

キス（久慈浜）

キスは東京都，浜名湖，和歌山県，淡路福良，富山県でも言う。意味不明。

144　メジナ

Dist. 本州北部～台湾，東支那海

B. L.　５０cm

アゴナシ（那珂湊），メジナ（久慈浜），モクズキ（大洗）

上顎に比べ下顎が小さいので，アゴナシと言う。標準和名のメジナは東京，神奈川県で言い，その意味不明。メジナの幼魚は流藻に付いて遊泳し，また成魚も海藻の繁茂するところに生息するので，モクズキと言う。

145　チダイ　NS（cc）

Dist. 北海道以南～フイリッピン

B. L.　４０cm

オオハナ（大洗），カスゴ（川尻），コダイ（久慈浜），タイ（大洗・久慈浜・平潟），チダイ（川尻），デコ（大洗），ハナダイ（大洗・平磯），ハナテ（大津），ハナコダイ（久慈浜），ベン（川尻，久慈浜），マテ（川尻），チュウハナ（大洗），コハナ（大洗），ベンカスゴ（川尻）

大洗魚市場で手釣タイを５０g以下をカスゴ，５０～１００gをハナコ，２００～３００gをハテナ，４００g以上を大ハナダイと呼び取引きされている。

オオハナは大鼻ダイの意で約４００g（１００匁）以上の大きなチダイを意味する。鼻ダイとは前額部が他のタイより多少突出し，ことに老成魚では著しいので，かく言う。デコもその意味である。福

島県小名浜，神奈川県浦賀，千葉県，山口県でもハナダイと言う。カスゴはチダイの小形のもので，大洗では約５６g（１５匁）以下，川尻では約１１０g（３０匁）以下，体長１５cm以下のものを言う。小形で値が安いので，かく言う。標準和名のチダイは血ダイの意で，体色の赤味が鮮やかなのでかく言う。千葉県高ノ島，大阪府，兵庫県網干，高知県安芸，和歌山県各地でも言う。ベン，ベンカスゴは若魚を言い，紅ダイの意で，体色が鮮やかな赤色であることを意味する。千葉県南部でもベニカスゴと言う。マテは川尻では約４００g～1,300g（１００～３５０匁）くらいのものを言う。その意味不明。コダイは久慈浜ではチダイの約２２５～２６０g（６０～７０匁）のものを指す。タイ一本釣により漁獲される。

146　ヘダイ　NS(+)

Dist. 分布甚だ広く，本州中部以南～台湾，中国，フイリッピン，東印度諸島～紅海，南アフリカ，オーストラリヤの東西両沿岸～ニューカレドニヤ

B. L.　４０cm

キダイ（涸沼川），シラッタイ（大洗）

クロダイに比べ体色にも幾分黄味があり，胸びれ，腹びれ，しりびれなどが黄味が強いので，キダイと言う。シラッタイは白タイの意で，体色がクロダイより白色光沢が強いのでかく言う。静岡県の静浦でも云う。標準和名のヘダイは東京，大阪，和歌山，山口，長崎の名で，その意味不明。

147　クロダイ　S(c)

Dist. 北海道南部～琉球，台湾，支那海

B. L.　４５cm

カイズ（県下一円），カエズ（那珂湊），クロダイ（久慈浜），チンチン（那珂湊）

クロダイの約４００g（１００匁）以下をカイズと言う。東京都，神奈川県，静岡県，和歌山県，大阪府で言い，大阪湾の貝津付近に多いので名付けられたと言う。標準和名のクロダイは黒ダイの意で，体色よりきた名で，東京都，名古屋，和歌山県，新潟県，鹿児島県，富山県でも言う。チンチンは那珂湊では体長９cmぐらいの小形のものを言う。関西ではクロダイをチヌと言う。チヌは大阪湾の古名ちぬの海に多いので名付けたと言われる。チンチンのチンは恐らくチヌの意であろう。東京より入って来た名である。

148　マダイ　NS(cc)

Dist. 北海道以南～台湾，支那海，ハワイ

B. L.　1.2m

オオダイ（大洗），アカダイ（大野），タイ（大洗・久慈浜・川尻），チュウダイ（大洗），トクダイタイ（大洗），マダイ（大洗）

大洗魚市場ではマダイの大きさを，小マダイは６００g以下，大マダイは６００g～1.2Kg，中マダイは1.2～2.5Kg，大ダイは2.5～5Kg，特ダイは5Kg以上を呼び取引きしている。又，会瀬では８００g以下をマコダイ，８００g～1.5Kgを大マダイ，1.5～3Kgを中ダイ，3Kg以上を大ダイと

呼び取引きをしている。オオダイは東京魚市場，高知魚市場で言う。マダイは東京，長崎，富山県新湊・富山で言う。タイ一本釣と定置網で漁獲される。

149　ハマダイ　S(r)

Dist. 本州中部以南の深海，ハワイ，Seychelles, Reunior, Burbon, Mauritius および大西洋では西印度諸島

B. L.　1m

オナガダイ（波崎・水戸）

体が細長く，尾部を細長く見えるので，オナガダイと言う。標準和名のハマダイは一般の名で，その意味は不明。機船底曳網で多獲される。

150　キダイ　S(r)

Dist. 茨城県以南，朝鮮南部，支那海，台湾

B. L.　40cm

レンコダイ（久慈浜）

レンコダイは大阪，和歌山県，堺，富山，高知で言う。その意味不明。標準和名のキダイは東京，三崎，沼津，和歌山県湯浅で言う。体色が黄色を帯びているので，かく言う。

151　イサキ（イサギ）　S(r)

Dist. 茨城県以南，琉球，台湾，支那海

B. L.　40cm

イサキ（久慈浜）

標準和名のイサキは東京の名。イサキは磯魚の意である。

152　シマイサキ　S(+)

Dist. 茨城県以南，台湾，支那海，フイリッピン，東インド諸島

B. L.　20cm

ギュウギュウ（那珂湊），シマメグリ（那珂湊），モクギョ（波崎・大野），シマイサキ（那珂湊・潮沼），シマセイゴ（大野）

釣りあげられるとギーギーと鳴くのでギュウギュウと言う。体側に黒い縦じまを５～６条あるのでシマメグリと言う。シマセイゴは体側に縞があり，セイゴはスズキの稚魚に似ているためにシマセイゴと言う。モクギョとは流れ藻に集る性質のある稚魚と成魚を全般的に言っている。標準和名のシマイサキは東京，三崎，神戸駒ケ林，和歌山県白崎で言う。

153　クラカケギス　S(r)

Dist. 茨城県以南の本邦各地

B. L.　20cm

トラボウ（大洗・川尻）

虎の体の斑紋のような斑紋が体側にあるので，トラボウと言う。標準和名のクラカケギスは田中博

士の命名。体側の横じまが鞍をかけたようなので，かく名付けられたのであろう。底曳網で漁獲される。

154　ミシマオコゼ　S(+)

Dist. 茨城県以南の本邦各地，朝鮮南部

B. L.　３０cm

ヤマノカミ（大津）

山の神はオコゼを好むと言われ，この魚をヤマノカミと言う。標準和名のミシマオコゼは東京，三崎，広島県玖波，徳島県，淡路島で言う。淡路の沼島に多く産するので，ヌシマジョロウという。ミシマはヌシマより転化せるものである。オコゼについては２０６．オニオコゼを参照されたい。

155　ハタタテヌメリ（ノドクサリ）　NS(c)

Dist. 青森～琉球，釜山

B. L.　２５cm

コチ（大洗・那珂湊）

コチに似ているためネズッポ類をすべてコチと言う。青森県，福島県，兵庫県淡路島でかく言う。標準和名のハタタテヌメリは田中博士の命名。背びれが高く，体がなめらかなのでかく名付けたものであろう。前種と共に底曳網で漁獲される。

156　イカナゴ　NS(cc)

Dist. 本邦各地沿岸に広く分布，南限不明。

B. L.　２０cm

コウナゴ（県下一円），ズブドウシ（大洗・川尻・大津），ズブトウシ（大洗）

コウナゴはコウナギより転音したもので，小ウナギの形に多少似ているので，名付けられた。宮城県，千葉県，東京都，愛知県，徳島県，秋田県，富山県，福井県，岡山県で言う。これを漁獲するとき網目にズブズブつきささるのでズブドウシ，ズブトウシの名がある。イカナゴは標準和名で関西，天草佐伊津，淡路島福良で言う。イカは魚，ナも魚の意，イカナゴは魚の子の意である。この魚は他の魚に比べ小形なので，かく言う。シラス曳網で多獲される。

157　ナベカ　S(r)

Dist. 函館以南～長崎

B. L.　１０cm

カエルウオ（多賀町大久保）

潮溜りでピョンピョンはねて逃げるのでカエルウオと言う。ナベカは標準和名で，三崎，富山県で言う。ナベカはナメカよりの転音で，皮膚のなめらかな魚の意である。

158　ダイナンギンポ　NS(c)

Dist. 函館以南～本州各地沿岸，朝鮮，岩礁性，潮溜や内湾に多い。

B. L.　２４cm

カタウナギ（水戸・大洗），カタナギ（水戸・大洗・那珂湊・川尻・伊師浜），ホウチョウ（那珂湊）

カタウナギ，カタナギは潟ウナギの意で，内湾や潮溜にすみ，多少形がウナギに似るため，これらの名がある。背びれの棘が鋭く，これらにふれると手などけがするため，この魚をホウチョウと言う。ダイナンギンポは標準和名で，その意味不明。

159　ギンポ　NS(c)

Dist. カラフト以南～九州，朝鮮南部

B. L.　30cm

カタナギ（大洗・多賀・川尻），タネバカ（大洗），タレバカ（大津），ナギナタ（水戸・大洗），ホウチョウ（那珂湊），ギンポ（久慈浜）

体形細長く，背びれ，しりびれの先端鋭く，これにふれると手など切れやすいのでナギナタ，ホウチョウと言う。タネバカ，タレバカの意味不明。標準和名のギンポは東京の名。意味不明。

160　チチブ　NS(cc)

Dist. 北海道網走以南，琉球および朝鮮淡水産および汽水産

B. L.　14cm

クソゴロ（霞ケ浦），クロゴロ（霞ケ浦・北浦・水戸），ゴロ（霞ケ浦・北浦・那珂・常澄・大洗・涸沼），ゴロカジ（霞ケ浦），ダボハゼ（内原・下石崎・那珂湊），ウミハゼ（大洗），ドンコ（那珂湊），ドロカジ（那珂湊），ハクフクレ（―）

ゴロは小石の意で，水中にじっと静止しているこのハゼが，小石のように見えるので，かく言う。霞ケ浦・北浦では本種とビリンゴ，ウキゴリをゴロと総称する。クロゴロは体色の黒色のもの。最も不味なためクソゴロの名がある。ゴロカジはゴロメというような意であろう。カジは卑称であろう。本種は産卵期に腹がふくれるのでハラフクレと言い，どんなえさにも食いついて，子供でもたやすく釣れるので，馬鹿なハゼの意でダボハゼと言う。ウミハゼは海にも生息するので，かく言う。ドンコは太って背の低い者を言う。このハゼの形がそれに似るためである。ドロカジは泥棒ハゼメとの意で，貪食でえさをむさぼり食うので，この名がある。標準和名のチチブは高知の名。その意味は不明。

161　シマハゼ　NS(c)

Dist. かん水および汽水産。山形県および岩手県以南の本邦各地沿岸，朝鮮，中国

B. L.　9cm

シマバッコ（大洗），フウセンバッコ（大洗）

シマバッコは縞末子の意で，体側に暗褐色の２縦帯があるので，この名がある。バッコとは小魚の意。フウセンバッコは腹のふくれた産卵期のシマハゼを言ったものであろう。標準和名のシマハゼは体側の２本のたてじまよりの名で，田中博士の命名。

162　ヨシノボリ　NS(c)

Dist. 北海道以南の本邦全土，朝鮮，中国，フイリッピン

B. L.　8 cm

ゴロ（霞ケ浦・北浦・涸沼），トラゴロ（霞ケ浦・北浦・水戸），ヤナギッパ（霞ケ浦）

体色が赤や青の色彩があって美しく，体側の斑紋が多少虎の斑紋に似ているので，トラゴロと言い，体が細長く柳の葉のようなのでヤナギッパと言う。標準和名のヨシノボリは長野県松本平で言う。

163　アシシロハゼ　NS(r)

Dist. 汽水および海水産。北海道以南の本邦各地の沿岸，本県では霞ケ浦，那珂川河口

B. L.　8 cm

ハゼ（那珂湊）

本種はあまり多くないので，単にハゼと言われている。

164　マハゼ　NS(cc)

Dist. 海水および汽水産。青森以南の本邦各地沿岸。本県では那珂川，涸沼川，利根川に多い。

B. L.　２５cm

ドタハゼ（那珂湊），ドラハゼ（那珂湊），ハゼ（那珂湊・涸沼），ドタバゼ（那珂湊）

ドタは太っているもの，ドタハゼ，ドタバゼ，ドラハゼは大型のマハゼの名。標準和名のマハゼはハゼ類中最も味の良いことを意味する。涸沼では延縄で漁獲される。

165　リュウグウハゼ　NS(rr)

Dist. 東北地方以南の各地沿岸

B. L.　１０cm

トラボウ（川尻）

体は淡かっ色の地に４個の巾広いかっ色の横じまがあるのでトラボウと言う。標準和名のリュウグウハゼは田中博士の命名。生態のわからないハゼという意味で，リュウグウハゼと命名されたのであろう。

166　ウキゴリ　NS(c)

Dist. カラフトから奄美大島，朝鮮，ウラジオストック

B. L.　9 cm

ゴロ（涸沼・大洗），ドンカ（水戸），ドンカチ（水戸），ボタハゼ（霞ケ浦・北浦），ヤナギゴロ（土浦），ヤナギッパ（霞ケ浦・北浦・水戸）

ドンカ，ドンカチはドンコと同じ意味。ヤナギゴロ，ヤナギッパは体形よりの名。ボタハゼの意味不明。標準和名のウキゴリは石川県金沢の名で，本種は他のハゼ類とちがい，ビリンゴと同じように中層に浮かんで静止したり，泳ぐことがあるので，この名がある。標準和名のウキゴリは加賀金沢の名。底層にすむが中層に浮き上って静止するので，この名がある。

167　ビリンゴ　NS(c)

Dist. 淡水および汽水産。カラフト以南の本邦各地，朝鮮

B. L.　6 cm

ゴロ（霞ケ浦），トラゴロ（霞ケ浦），オシャラクドンカ（水戸千波沼）

本種は雌のみ産卵期に婚姻色が出て，頭部，背鰭，臀鰭，腹鰭が著しく黒くなるので，オシャラクドンカと言う。オシャラクとは派手好みの女という意。ビリンゴは博多の名で，ビリンゴとは小さいハゼの意味である。

168　アゴハゼ　NS(cc)

Dist. 函館以南，種ケ島，朝鮮

B. L.　7 cm

ギンポ（多賀町大久保），ドンコ（那珂湊），テッビリバッコ（大洗），トットコ（平磯）

多少ギンポに似ているのでギンポの名がある。干潮時岩礁地帯の潮溜に生息するハゼ，カジカ類の小魚を一般にバッコと呼ぶ。バッコは末子の意で小さい魚を意味し，ビリはこれも小さいことを意味する。テッビリは大変小さいという意である。すなわち，テッビリバッコとは大変小さなハゼの意である。トットコは魚の子の意の童語である。標準和名のアゴハゼは田中博士の命名。

169　シロウオ　NS(r)

Dist. 青森から鹿児島，朝鮮釜山

B. L.　9 cm

ヒウオ（水戸）

ヒウオは氷魚で，やゝ不透明な黄白色なのでかく言う。標準和名のシロウオは千葉県小木川，和歌山県，高知県宇和島，宮崎県南部，対馬，鹿児島県で言い，白魚の意で，死ぬと真白になるのでこの名がある。

170　ボウズハゼ（ボウズゴリ）　S(+)

Dist. 本邦中部以南，奄美大島，琉球，台湾，本県では霞ケ浦に分布。

B. L.　１２cm

ハゼ（那珂湊）

標準和名のボウズハゼは和歌山県田辺の名，ボウズゴリは高知の名で，何れもこの魚の頭部の形が坊主頭を連想させるのでこれらの名がある。

171　ウミタナゴ　NS(c)

Dist. 北海道南部以南～朝鮮南部

B. L.　２５cm

タナゴ（県下一円）

この魚は卵胎生で，普通一腹に１０～２０尾の胎児をもっている。タナは北海道松前，青森，秋田県鹿角郡で子供を背負う帯の意味をもち，岩手県でもタンナを同じ意味に用いている。古代日本人は手をタナと呼び，東北地方の方言タガク（持つ）はタナクより転音させるものである。

タナゴは子をもつ魚の意味である。ウミタナゴは真のタナゴで，ウミタナゴと言う必要はなく，淡水のタナゴは海産のタナゴに形がよく似ているので名付けられたのであろう。青森県，岩手県，宮城

県，福島県，神奈川県，愛知県，三重県，和歌山県，兵庫県，島根県，岡山県，山口県，香川県，大分県，分県，熊本県，長崎県でタナゴと言う。標準和名のウミタナゴは淡路島福良で言う。

172　オキタナゴ　S(r)

Dist. 茨城県以南，朝鮮南部，対馬，隠岐

B. L.　２０cm

タナゴ（那珂湊）

長崎でもタナゴと言う。標準和名のオキタナゴは三崎の名。ウミタナゴより沖に生息するので，この名がある。

173　カンダイ（コブダイ）　S(+)

Dist. 茨城県以南，南支那海

B. L.　６０cm

ウゴイ（大洗・那珂湊・久慈浜），デボダイ（川尻），ユゴイ（大洗・那珂湊）

久慈浜ではこの類とベラ類を総称してウゴイと言う。ウゴイ，ユゴイの意味は海の鯉と云う意味。デボは出額で，おでこのこと。デボダイは前額部がコブのように張り出したタイの意。標準和名のカンダイは東京三崎の名。その意味不明。一本釣で漁獲される。

174　ニシキベラ　S(r)

Dist. 茨城県以南～トカラ列島，琉球，台湾，ジャバ

B. L.　２０cm

アズキ（大津），キンギョ（川尻），ムギメシ（大津）

アズキおよびムギメシは，いずれもこの魚の味が不味なることを意味する。キンギョは，この魚の体色が赤，青，緑と大変美しいので言う。標準和名のニシキベラはどこの名か不明。この名も体色の鮮やかな色彩より名付けられたものである。

175　ササノハベラ　S(+)

Dist. 茨城県以南の南日本に極めて普通。

B. L.　２３cm

ウグイ（大洗），ウゴイ（大洗），エバトリ（磯崎），オゴイ（那珂湊・久慈），キンギョ（川尻），ネズッパ（河原子）

ウゴイはウミゴイの意で，この魚が体色が美しくあざやかなので，多少コイに似ているから，この名がある。オゴイはウゴイより転音せるもの。エバトリはえさとりの意，キンギョは体色が美しいので名付けられた名。ネズッパの意味不明。エバトリは磯崎におけるベラの総称。ネズッパは河原子におけるベラの総称。標準和名のササノハベラは称呼地不明，意味も不明。

176　キュウセン　S(r)

Dist. 函館以南本邦各地沿岸，フイリッピン

B. L.　２５cm

アズキ（大津），ウグイ（大洗），エバトリ（大洗），ムギメシ（大津）

この魚はベラ類中最も美味なので，ムギメシ，アズキの方言は当を得ない。本県以南のこの方言があやまって移殖されたためであろう。標準和名のキュウセンは三崎の名。体側のたてじまが9条ぐらいあるので名付けられたものである。ベラ類は一本釣で漁獲される。

177　カゴカキダイ　S(c)

Dist. 茨城県以南～トカラ諸島，琉球，台湾，Pescadores Islands，中国，ハワイ，オーストラリヤ

B. L.　20cm

ギンパ（大洗）

カワハギ類をギンパと総称する。形が多少カワハギに似ているので，かく言う。標準和名のカゴカキダイは称呼地不名。意味も不明。

178　アイゴ　S(+)

Dist. 茨城県以南～琉球，台湾，中国，フイリッピン，東インド諸島，モザンビーク，クインスランド

B. L.　30cm

ネションベン（大洗）

この魚の体臭が寝小便の臭に似ている。また体側の斑紋が寝小便のしみに似ているので，この名がある。福岡県でイバリ，バリ，和歌山県でアイノバリ，バリコ，熊本県でションウベンウオ，江の島でネションウベンウオと言う。標準和名のアイゴは三崎，東京の名で，その意味不明。

179　カワハギ　S(c)

Dist. 茨城県以南～琉球，台湾，アフリカ東岸

B. L.　30cm

カワハギ（大津），カワムキ（久慈浜），ギンパ（大洗・那珂湊・川尻），ムキ（久慈浜），ヤマモ（大津・平潟），ヤマンボウ（河原子）

静岡県でもギンパと言う。伊東でギッパ，宮城県，静岡県，愛知県，三重県でギハギ，伊豆御蔵島ではギンパイ。いずれも皮を剝ぎとる意である。ヤマモ，ヤマンボウはその意味不明。標準和名のカワハギは三崎，東京の名。皮を剝ぐ意。

180　アミメハギ　S(+)

Dist. 茨城県以南各地沿岸に普通

B. L.　7cm

ギンパ（大洗）

その意は前者に同じく，皮を剝ぐ意。標準和名のアミメハギは一般的な名。網目様の紋様があるので，かく言う。

181　ウマズラハギ　S(+)

Dist. 北海道以南，本邦各地沿岸

カワムキ（久慈浜），ギンバ（県下一円），ムキ（久慈浜），ヤマンボウ（河原子）

標準和名のウマズラハギは頭部の眼の前方が長く，馬の顔によく似ているので，この名がある。一般的な名である。カワハギと共に底曳網，定置網で漁獲される。

182 ハコフグ　S(r)

Dist. 茨城県以南～台湾，フイリッピン，東インド諸島，南アフリカ

B. L.　３０cm

イシダイ（平潟），イシフグ（久慈浜・川尻・平潟），バラフグ（大洗）

イシダイ，イシフグは，この魚が堅い亀甲形の骨板でおおわれるので，石のように堅いフグと言う意味である。バラフグはその意味不明。標準和名のハコフグは体の形が箱形をしているので，かく言う。東京，三崎の名である。

183 ウミスズメ　S(r)

Dist. 茨城県以南～台湾，東インド諸島，南アフリカ，南部クインスランド

B. L.　１２cm

イシフグ（川尻），ホトケノマイ（大野・大洋）

イシフグは石フグ，ホトケノマイは意味不明。標準和名のウミスズメは頭部の感じ特に眼がスズメに似ているので，かく言う。三崎の名。

184 ザバフグ　NS(c)

Dist. 東北地方以南～朝鮮南部，支那海，フイリッピン，東インド諸島，オーストラリア

B. L.　３５cm

キンフグ（河原子），ギンフグ（大洗），トラフグ（旭村）

熊本県三角，福井県，長崎県でもキンフグと言う。また三崎，東京，天草牛深，高知，長崎でもギンフグと言う。体側の金色に光るものをキンフグ，体側が銀色に光るものをギンフグと言う。トラフグの意味は不明。標準和名のサバフグは長崎，和歌山，富山県東岩瀬の名である。体色が多少サバに似ているので，かく言う。

185 カナフグ　S(r)

Dist. 茨城県以南，東支那海，インド洋熱帯，オーストラリア

B. L.　５０cm

コガネフグ（大洗）

体背側淡褐色なので，カナフグ，コガネフグの名がある。

186 トラフグ　S(c)

Dist. 南部北海道以南，台湾，朝鮮，中国，Peter the Great Bay

B. L.　７０cm

トラ（久慈浜・大津），トラフグ（河原子・久慈浜）

トラ，トラフグは毒にあてられ死亡する人があるので，これを恐れてトラ，トラフグと名付けた。三崎，和歌山でトラフグと言う。

187　クサフグ　NS(cc)

Dist. 青森およびPeter the Great Bay以南，沖縄本島

B. L.　15 cm

ショウサイフグ（旭）

ショウサイフグは，このフグの斑紋がショウサイフグのそれに似ているため名付けられた。三崎でもショウサイフグと言う。標準和名のクサフグは三崎で言われ，田中博士の命名である。食用にもならず，またたくさん生息するのでクサフグと名付けた。

188　ショウサイフグ　NS(c)

Dist. 青森以南～鹿児島

B. L.　32 cm

クロフグ（那珂湊），サフグ（大洗・久慈浜）

サフグとは細フグの意で体の細長いことをあらわす。体の背中の黒色なのをクロフグと言う。標準和名のショウサイフグは東京，大阪の名で，その意味不明。マフグとともに延縄で漁獲される。

189　マフグ（ナメラフグ）　NS(+)

Dist. カラフト南西沿岸，北海道およびPeter the Gray Bayから東支那海

B. L.　40 cm

クロフグ（久慈浜），サフグ（大津）

三崎や東京ではトラフグよりもこのフグを好む。体の背面が紫褐色で黒っぽく見えるのでクロフグと言う。サフグの意味は前種に同じ。マフグは味のよいフグを意味する。東京，三崎では煮つけて食べるので，皮付き肉を喜び，その皮を賞味するためトラフグのような皮膚に強い棘のあるものを好まない。ナメラフグは皮膚が滑らかの意である。三崎，東京でマフグと言い，下関ではナメラフグと言う。

190　アカメフグ　S(+)

Dist. 茨城県以南の太平洋岸

B. L.　30 cm

メアカフグ（大洗）

眼の虹彩が美しい赤黄色なので，メアカフグまたはアカメフグと言う。メアカフグは和歌山県塩屋で，アカメフグは三崎・宮城で言う。

191　ハリセンボン　S(c)

Dist. 茨城県以南，世界各地の温熱帯

B. L.　40 cm

ハリフグ（大洗・川尻・大津）

体全体に二根をもった棘が密生しているため，この名がある。山口県，広島県，和歌山県でも，かく言う。標準和名のハリセンボンは三崎，富山県生地・東岩瀬の名である。

192　マンボウ　S(c)

Dist. 全世界の温熱帯の海に広く分布する

B. L.　4m

ウキギ（那珂湊），マンボウ（県下一円）

この魚は海面に体を横たえて浮かんでいることがあるので，それが浮木に似ているので，この名がある。マンボウはまんまるい魚の意である。銛で漁獲する。

193　ヤナギメバル　N(+)

Dist. 深海性，茨城県，塩釜，宮古，室蘭

B. L.　40cm

アンポン（川尻・大津・平潟）

寛政の末頃，この魚が多くとれ，江戸市中に売られたが，味がよくなかった。また，餌を３～５本に１ケの割でつけても餌のない釣針にもかゝるので，この魚をアンポンタンと言った。アンポンタンは当時江戸の流行語で，昭和２０年頃まで使われた言葉で愚か者をののしる言葉であった。標準和名ヤナギメバルの意味不明。建延縄で漁獲される。

194　メバル　NS(c)

Dist. 北海道以南～九州

B. L.　30cm

アカメ（川尻），アカメバル（川尻），クロメバル（久慈浜），クロメハル（那珂湊），タケノコ（那珂湊・河原子），タケノコメバル（久慈浜），メハル（水戸・大洗・那珂湊）

標準和名のメバルは大きな目をしている意。メハルも同様の意。アカメ，アカメバルは体色の赤いもの，クロメバル，クロメハルは体色の黒いものを言う。昭和２８年ころ平磯や河原子の魚市場でメバルをタケノコと言って取引するようになった。タケノコは東京市場の呼び名である。別種のタケノコメバルよりきた名である。タケノコメバルは関西に多く，大阪方面ではタケノコがとれる時期にこの魚が美味となるので，この名があるという。しかしメバルの方言タケノコ，タケノコメバルは本来の意味はなくなっている。

195　ウスメバル　N(+)

Dist. 函館，青森，宮古，塩釜，魚津，銚子，大阪，対馬海峡

B. L.　30cm

タケノコ（久慈浜），タケノコメバル（久慈浜），メハル（水戸・大洗・那珂湊）

東京市場で取引されるメバルのうちでタケノコメバルが値がよいので，昭和２８年ころから，この種の魚をタケノコ，あるいはタケノコメバルと言って取引きされるようになった。標準和名のウスメバルの称呼地不明。意味も不明。メバルとともに一本釣と延縄で漁獲される。

196　アコウダイ　S(c)

Dist. 茨城県，相模湾，駿河湾，静岡沖，東京。

B. L.　６０cm

アコウ（川尻）

深海魚で水深２００m前後の岩礁間に生息する。アコウは赤魚の意で体色の赤いことをあらわす。アコウは三崎の名である。標準和名のアコウダイも同意。

197　サンコウメヌケ　N(c)

Dist. 北海道以南～三崎

B. L.　４５cm

アカチョ（大津），ホンメヌケ（久慈浜），メヌキ（大津），メヌキダイ（大洗），メヌケ（大津）

アカチョは赤い稚魚の意で，サンコウメヌケの幼魚を言う。ホンメヌケのホンはメヌケ類中最も美味なることをあらわす。水深３００m前後の深海底に生息し，眼が大きく，突き出ているので，また深海から引きあげられると目玉がとびだすためにメヌキ，メヌケ，メヌキダイと言う。標準和名のサンコウメヌケは北海道，宮城県の名，その意味不明。

198　バラメヌケ　N(c)

Dist. 北海道以南～銚子

B. L.　５５cm

バラ（久慈浜），バラメヌケ（久慈浜），メヌキ（大津），メヌキダイ（大洗）

水深３００m前後の砂底にすむ。メヌケ類中では不味のもの。バラメヌケは宮城県の名。その意味不明。前種とともに機船底曳網で漁獲される。

199　キツネメバル　N(c)

Dist. 北海道以南～三崎，元山，釜山

B. L.　３０cm

クロゾイ（那珂湊），ソイ（水戸・那珂湊・久慈浜・大津），ドンコ（大洗），ガラッポ（久慈浜・河原子・会瀬・川尻・大津），カンネコ（久慈浜・大津・平潟）

クロゾイ，ドンコは体色黒味がかった磯魚の意，ソイは磯魚の略で，岩礁や岩石の底質のところに生息する魚を意味する。ガラッポ，カンネコの意味不明。標準和名のキツネメバルは田中博士の命名による。頭部の形が多少キツネに似るためである。

200　ムラゾイ　S(+)

Dist. 茨城県以南の各地沿岸，釜山，中国

B. L.　３５cm

ソイ（川尻），ドンコ（大洗・那珂湊），ガラッポ（久慈・河原子・川尻・大津・平潟），カンネコ（久慈・川尻・大津・平潟）

キツネメバルと区別せず，方言は同じである。標準和名のムラゾイは称呼地不明で，意味も不明。体色黒かっ色で，ずんぐりした形をしているのでドンコと言う。ドンコは石川県鹿島郡では太って背

の低いもの，ドンコロは青森県では丸いずんぐりした形を言う。

201　ゴマゾイ　N(+)

Dist. 北海道，青森県鮫，宮古，田代（仙台付近）

B. L.　３０cm

ナツバオリ（水戸・大洗・那珂湊・久慈浜）

体色紫黒色で白っぽい小点を密布し，すこぶる美しく見え，夏羽織のようであるので，ナツバオリと言う。標準和名のゴマゾイは称呼地不明で，その小白点が白ごまをまいたようなので，かく言う。

202　ヨロイメバル　S(c)

Dist. 魚津および茨城県以南，熊本，釜山

B. L.　３０cm

ドンコ（大洗）

防波堤のすて石またはテトラポットの間に多数生息し，磯釣りの対象魚で，体色黒っぽくずんぐりしていてドンコという名にぴったりの魚である。美味である。黒糸おどしのよろいを着けたような感じもするので，ヨロイメバルと言う。称呼地不明。

203　カサゴ　NS(cc)

Dist. 北海道以南本邦各地，台湾，朝鮮，中国

B. L.　３０cm

アカゲ（大洗），アコウ（大洗・川尻），ネヨ（那珂湊）

アコウ，アカゲは体色美しい黄赤色で淡かっ色または黄色の斑紋をもつ赤魚の意である。ネヨは根魚で，常に岩礁間または海そうの繁茂するところに生息している。標準和名のカサゴは東京の名。頭部に棘があり凹凸がはげしいので，この名ある。

204　アヤメカサゴ　S(+)

Dist. 茨城県以南本邦各地，釜山，香港

B. L.　３０cm

アカゲ（水戸），アコウ（水戸）

アカゲ，アコウともに赤魚で，体色の赤い魚の意。標準和名のアヤメカサゴは三崎の名。体色赤色へやゝ黄味を加え，赤黄色の斑点や線状紋などが散在するので，アヤメの花の色模様に多少似ているので，かく言う。

205　キチジ　N(cc)

Dist. 北海道以南～駿河湾の深海

B. L.　３０cm

アカジ（県下一円），アカチョ（大津），キチジ（水戸），コアカジ（久慈浜）

体色の地色が赤いのでアカジと言う。福島県小名浜でも言う。これが幼魚をコアカジと言う。アカチョは大津では大形のものを言う。キチジは水戸の名，その意味不明であるが，或いは人名ではない

だろうか。現在では水戸でもキチジと言う人はいない。皆アカジと言う。戦前および戦後しばらくは冬から春にかけてこの魚をたくさん並べた露店が水戸駅付近に何軒も店を出し，その赤い体色が街に美しい色彩をそえたものだが，現在はなくなった。底曳網で漁獲される。

206　オニオコゼ　S(+)

Dist. 茨城県以南，朝鮮，台湾，広東

B. L.　２４cm

オコジ（大洗）

オコジはオコゼより転音したもの，オコゼは山の神の供物で，山の神はことのほか，この魚を好み，これを供えて山の神の恩寵を期待する風習は広く見られる。山の神は醜いので，これをあげると自分より醜いものがあるといって喜ぶ。オコゼはオコセより来たもので，オコゼは贈物，供物などの意味をもつ。標準和名のオニオコゼは三崎，東京で言われ，誰か学者が他のオコゼ類と区別するため，頭部の形が鬼を想像させるので，名付けたものであろう。オコゼと言われる魚種は全国に２７種類が知られ魚類以外の動植物名にも使用され，民俗的にも山の神の供物として農漁村民間の各種の習俗に伝承されている。オコゼの名は我が国において1,０００年以上も不断に用いられてきた古名で歴史的にも優勢であり，形態的な面からつけられたようである。

207　ハオコゼ　S(+)

Dist. 茨城県以南の各地，朝鮮

B. L.　9cm

ヤマノカミ（大洗）

ヤマノカミに供えられる魚という意味で，ヤマノカミと言う。標準和名のハオコゼは三崎の名で，形や色彩が枯葉に似ているために名付けられた。

208　クジメ　NS(cc)

Dist. 函館～長崎

B. L.　３０cm

イソヨ（県下一円），キクウズ（水木），ククツ（大洗），クグウツ（水戸），クチウチ（助川）

イソヨは磯魚の意である。キクウズ，ククツ，クグウツ，クチウツの意味不明。標準和名のクジメは三崎，関西，東京市場，島根県浜田の名で，その意味不明。

209　ホッケ　N(r)

Dist. 北海道～日本海南部，茨城県

B. L.　４５cm

ホッケ（大津・平潟）

ホッケは北海道，東北地方，佐渡，新潟県下宿の名。その意味不明。

210　アイナメ　NS(cc)

Dist. 北海道以南～本邦各地沿岸

B. L.　４０cm

アアナ（大洗・那珂湊），アイナ（県下一円），エエナメ（平磯），エイナ（水戸・大洗・那珂湊）

アイナより転音してアアナ，エエナメ，エイナとなった。アイナの意味不明。標準和名のアイナメは東京，三崎の名，その意味不明。

211　イネゴチ　S(+)

Dist. 石川県金石および茨城県以南，東インド諸島

B. L.　４０cm

コチ（大洗）

形コチに似るため，この名がある。意味不明。標準和名のイネゴチは称呼地不明。意味も不明。

212　カジカ　NS(cc)

Dist. 本州各地，九州，北海道

B. L.　３０cm

アブラッコ（里川），カジカ（霞ケ浦・太田），カチカ（瓜連・那珂・久慈浜），クロチャ（久慈浜），バカゾワ（大宮），バカッチョ（黒沢・袋田）

体の粘液がぬらぬらして，この魚をつかむときの手ざわりが，あたかも油を塗ったものをつかむような感じがするので，アブラッコと言い，体色が黒いので，クロチャと言い，渓流の石の下に穏れているが，石を起こされ，人にたやすく漁獲されてしまうので，馬鹿な魚という意味でバカゾワ，バカチョと言う。標準和名のカジカは東京，山梨，琵琶湖，信濃川，平，仙台，山形の名で，それは水底の石や岩石にじいっと付着している魚を意味する。

213　ヤライカジカ　N(+)

Dist. 茨城県（平磯），函館

B. L.　２０cm

イコジ（平磯）

磯の岩礁地帯にすみ，すんでいる場所をあまり離れないので，釣り落しても同じ場所で釣れる。このように自分のすみかを離れない習性がイコジのように思われるので，この名がある。標準和名のヤライカジカの称呼地，意味不明。

214　キヌカジキ　NS(c)

Dist. 函館以南～三崎

B. L.　８cm

カワバチコ（磯崎），サンタロコメ（平磯），トットコメ（平磯），トテコッコ（那珂湊），ネギノマル（川尻），ネギマラ（川尻），トットコ（平磯）

カワバチコの意味不明，サンタロコメは三太郎子奴で，この魚は小形のカジカ類で食用にはならな

いが，潮溜に多数生息し，子供たちはこの魚を釣って遊ぶ。子供達とおなじみの魚なので，サンタロコメ，トットコメ，トテコッコ，トットコのような子供のつけた名前すなわち童語がある。ネギノマル，ネギマラは川尻でカジカ類を総称するときに用いる。その意味は不明。キヌカジカは田中博士の命名。その意味不明。

215　ケムシカジカ　N(＋)

Dist. 東北地方および日本海北部からオホーツク海，ベーリング海，カムチャッカ

B. L.　３０cm

ヤマノカミ（久慈浜）

ヤマノカミはその容貌が非常に醜いとされているが，この魚の容貌も醜いので，ヤマノカミと言う。標準和名のケムシカジカも同様な意味で，称呼地不明。

216　サブロウ　N(c)

Dist. 千葉県銚子以北のやや深海に多い

B. L.　２０cm

オニギス（水戸・那珂湊），トトキ（大洗・大津）

ギス（カナガシラ）よりさらに骨ばった形態をしているのでオニギスと言う。トトキの意味不明。サブロウは青森県の名で，恐らく三郎なる人名に関係するのであろう。

217　ホウボウ　S(c)

Dist. 茨城県以南，台湾，ニュージランド

B. L.　５０cm

ホウボウ（大洗・久慈浜・平潟）

ホウボウは高知の名。この魚は大きな声で鳴くので，ホウボウはその鳴き声からきた名である。ホウボウは前種のサブロウ，次のカナド，カナガシラ，キホウボウ等と共に機船底曳網により漁獲される。

218　カナド　S(＋)

Dist. 茨城県以南～支那海

B. L.　２０cm

ギス（那珂湊），ゴンゼイ（水戸），ゴンゼン（―）

この魚は頭が大きく体が骨ばってやせて見えるので，ギスと言う。群馬県ではやせて骨ばった人をギスと言う。ゴンゼイ，ゴンゼンは意味不明。標準和名カナドは三崎の名。金頭で，かねのように堅い頭の魚の意である。

219　カナガシラ　NS(c)

Dist. 本州各地沿岸～支那海

B. L.　４０cm

カナガシラ（大洗・久慈・平潟），キス（水戸），ギス（県下一円）

キスはギスより転音したもの。標準和名のカナガシラは三崎，富山県および各地の名。金頭は，金のように堅い頭の魚の意。

220　キホウボウ　S(c)

Dist. 茨城県以南の各地に普通

B. L.　２１cm

オニギス（水戸），オニゴンダイ（大洗），ホトトギス（大洗）

オニゴンダイは鬼権太魚で，眼前骨が突き出して，二本の角のようであり，その形態がいかにも恐ろしく見えるので，この名がある。ホトトギスは頭が大きく骨ばってやせているので，かく言う。標準和名のキホウボウは三崎の名で，体色が赤味を帯びた黄色なので，かく言う。

221　クサウオ　NS(+)

Dist. 富山湾，能登，相模灘，鹿島灘，青森，千島幌筵

B. L.　３６cm

オダハンニャ（大洗），オヨネキチベエ（那珂湊・大津），ササザラ（旭），ナマズ（久慈），ネコサギ（那珂湊），ミズドンコ（那珂湊）

その頭部の形状，おとなしい般若の面に似ているのでオダハンニャと言う。この魚の形から受ける感じが，ぐにゃぐにゃしているので，男だか女だか，はっきりしない人のような感じがするため，オヨネキチベエと言い，漁船乗組員で１人前の仕事のできない，ぐずぐずした，男か女かハッキリしない人を言った。ササザラの意味不明。ミズドンコはその形態よりの名で，水ドンコの意である。標準和名のクサウオは能登半島宇出津の名で，食用にならない魚の意。ナマズは久慈浜でクサウオ類の総称。ネコサギはネコサケよりの転音。この魚は戦前は食用にしなかったので，猫も食わないという意味でネコサギ。戦争中は塩でもんで食用にしたが現在は再び食用にしなくなった。次のビクニンと共に機船底曳網で漁獲される。

222　ビクニン　N(r)

Dist. 日本海に多い。島根県，兵庫県津居山，舞鶴，富山湾，新潟県能生，朝鮮，北海道，茨城県

B. L.　１６cm

オヨネキチベイ（大津）

ビクニンは新潟能生の名。比丘尼の意である。

223　コバンザメ　S(r)

Dist. 全世界の温熱帯に広く分布

B. L.　８０cm

ツゲノカミノジンシロウ（水戸），ツチウオ（大津），ワラジザメ（水戸），サメジラミ（水戸）

この魚を水戸で告の神の甚四郎と言い，漁師がこの魚をとって，神棚に供えてお祝をすると必ず大漁するとの言い伝えがあると栗原柳庵著「鮫譜」にでている。この魚は頭部に小判形の吸盤を持って

いるので，大黒天の手に持つ打ち出の小槌のような魚であるという意でツチウオと言う。また頭部の吸盤をワラジに見たてワラジザメとも言う。サメジラミとはこの魚が吸盤で大形のサメの体に吸着して生活するので，かく言う。標準和名のコバンザメも吸盤に注目してつけた名で，東京，三崎，千葉県勝浦の名である。

224　ナガコバン　S(rr)

Dist. 太平洋，大西洋およびインド洋の温熱帯

B. L.　15cm

サメジラミ（大洗）

225　ヒラメ　NS(cc)

Dist. 千島，カラフト～九州，朝鮮，支那海

B. L.　80cm

オオヒラメ（大洗），コバラ（大津），コビラ（大津），コビラメ（大洗），シラメ（波崎），ソゲ（大洗・那珂湊・久慈浜），チュウビラ（大津），チュウビラメ（大洗），トクダイヒラメ（大洗），ヒラメ（県下一円）

大洗漁協魚市場では特大ヒラメは約5.6Kg（１貫５００匁）以上，大ヒラメは約1.3～4.1Kg（３５０匁～１貫１００匁），中ヒラメは約９４０～1,２８０g（２５０～３４０匁），小ヒラメは約５６０～９００g（１５０～２４０匁），ソゲは約５３０g（１４０匁）以下として取引きされる。ソゲは竹や木などをそぐとできる小さなささくれをさすが，ここでは小さいものの意に用い，ヒラメの幼魚を意味する。標準和名のヒラメは東京の名。全国的である。平奴で平らたい魚の意である。機船底曳網，一本釣で漁獲される。

226　ガンゾウビラメ　S(+)

Dist. 茨城県以南～台湾，中国

B. L.　45cm

ガッチョ（久慈浜），ガンゾウ（那珂湊），ヒダリ（久慈浜）

ガッチョはかたわものの意，カレイなのに左側に眼がついているので，かく言う。ガンゾウは意味不明。東京，千葉，兵庫，高知，小名浜で言う。ヒダリはヒダガレイの略，ヒタリガレイは富山，兵庫の日本海側の名。頭の左に眼のあるカレイの意。ガンゾウビラメは三崎，東京，三重，和歌山の名。意味不明。

227　ダルマガレイ　S(r)

Dist. 茨城県以南～台湾，オーストラリア，インド洋，東アフリカ

B. L.　15cm

ヒダリガッチョ（久慈浜）

ヒダリガッチョは右側に眼がついておるべきなのに左側についている，かたわのカレイの意。標準和名のダルマガレイは称呼地不明。頭部の形，体全体が丸く，ダルマに似ているため，この名がある。

228　アブラガレイ　N(r)

Dist. カラフトおよび千島～仙台

B. L.　３０cm以上

アブラガレイ（久慈浜），エンキリ（久慈浜・水戸），ハオイ（久慈浜）

不味のため二度と食べないという意味でエンキリと言う。小名浜でも言う。アブラガレイは本県久慈浜，北海道，富山県の名。体に脂肪が多いための名である。ハオイは覇大魚で，この魚は他に比べ大きくなるので，かく言う。ヒラメ，カレイ類の多くは機船底曳網により漁獲される。

229　ソウハチ　N(r)

Dist. 千島およびカラフト～茨城県，日本海では沿海州，朝鮮，隠岐島，大連

B. L.　３０cm

エンキリ（久慈浜），オキマコ（水戸），カラス（水戸・平潟），ハオイ（久慈浜）

沖に生息するのでオキマコ。体色が暗かっ色でほとんど斑紋がないのでカラスと言う。銚子，福島県請戸でも言う。標準和名のソウハチは東北，北海道の名。宗八なる人名に関係ある名であろうが，その意味不明。

230　ムシガレイ　NS(c)

Dist. 北海道～台湾，朝鮮

B. L.　３０cm

ニクフカ（久慈），ニクブカ（久慈），ムシ（県下一円）

ニクフカ，ニクブカは肉深で，肉身が厚いことを意味する。ムシは虫食いのムシで，この魚は体側にうす茶色の輪のような大小の斑紋が散在し，虫が食ったように見えるので，ムシまたはムシガレイと言う。ムシガレイは東京，三崎の名である。

231　ホシガレイ　S(r)

Dist. 茨城県以南各地沿岸，朝鮮南部と西部

B. L.　６０cm

タカノハ（水戸），タカノハガレイ（久慈浜）

背鰭と臀鰭に若干の大きい黒かっ色の斑紋をもっているので，タカノハ，タカノハガレイと言う。小名浜ではタカノハビラメと言う。標準和名のホシガレイは関西の名で，黒かっ色の体側の斑紋より名付けられたものである。

232　マツカワ　N(c)

Dist. 千島～茨城沖，カラフト，De Castris Bay, Peter the Great Bay

B. L.　６０cm

オオマツカワ（久慈浜），キビラ（大洗・久慈浜・平潟），キマツ（久慈浜），キマツカワ（久慈浜），ダイナンマツカワ（那珂湊），マツカワ（涸沼・石崎・那珂湊・久慈浜）

マツカワの雌は雄より体が大きいので，オオマツカワと言う。雄は無眼側が黄色なのでキビラ，キ

マツ，キマツカワと言う。ダイナンは沖を意味し，マツカワはこの魚のうろこの排列が松皮状なので，かく言う。このダイナンマツカワは雄で，沖合にいると言われる。標準和名のマツカワは茨城の名である。

233　メイタガレイ　NS(c)

Dist. 北海道以南～台湾，朝鮮，中国

B. L.　30 cm

ダラ（大洗・那珂湊），フウジマ（大洗・久慈浜），フウテン（久慈浜），メダカ（水戸・那珂湊）

この魚を手に持つとダラリとするのでダラと言う。フウジマは意味不明。眼が他より幾分突き出ているのでメデカまたはフウテンと言う。標準和名のメイタガレイは三崎，東京の名で，眼と眼の間に強い隆起線があるので，この名がある。

234　マガレイ　NS(+)

Dist. 千島およびカラフトから南方，福井県小浜，瀬戸内海，朝鮮東海岸，ウスリー湾沖，中国

B. L.　30 cm

アカジマコ（大津・平潟），カレイ（平潟・久慈浜・大洗）

カレイの意味不明。この魚の眼側の体は淡かっ色であるのでアカジマコと言う。小名浜でもアカジと言う。標準和名のマガレイは東京，北海道，富山県生地・魚津の名で，味の美味なることをあらわす。

235　マコガレイ　NS(c)

Dist. 北海道以南～大分県付近，朝鮮南部，東支那海

B. L.　30 cm

カラス（久慈浜），ハオイ（久慈浜），ホンマコ（大洗・那珂湊），マコ（県下一円），マコガレイ（久慈浜・川尻），マコビラ（那珂湊）

体の有眼側は茶かっ色で，不明瞭なかっ色の斑紋が散在するが，多少黒っぽく見えるのでカラスと言う。ホンマコは美味なることをあらわす。マコは県内，東京，小名浜の名。マコは真子で白子に対する言葉で卵巣のことで，産卵期が漁期で，卵巣をもっているカレイをマコと言う。標準和名のマコガレイは東京の名である。マコビラは那珂湊におけるカレイ類の総称である。

236　ヌマガレイ（タカノハガレイ，カワガレイ）　N(+)

Dist. 霞ケ浦，福井県小浜以北，朝鮮，沿海州，オホーツク海，ベーリング海をへてアメリカ，南カリフォルニヤに至る沿岸に接した河川湖沼

B. L.　30 cm

カワガレイ（霞ケ浦・北浦）

汽水，河口，塩分の少ない湖にも生息するのでカワガレイと言う。北海道，宮城県，富山県新湊の名である。標準和名のヌマガレイは北海道の名で，湖沼にも生息するので，この名がある。タカノハガレイは新潟県寺泊の名で体側ならびに背びれ，臀鰭の濃かっ色の斑紋の状態より名付けたものであ

る。

237　イシガレイ　NS(c)

Dist. 千島，カラフト～本邦各地沿岸，朝鮮，北中国

B. L.　５０cm

イシダマコ（大洗），カッタイビラ（水戸・那珂湊），イシマコ(水戸・那珂湊)，マコ（水戸・大洗）

体の眼側に数個の大きい石のような突起物の鱗板が並ぶためイシダマコ（イシダママコの略）と言う。カッタイビラもその突起物よりの名である。愛知県ではカッタイビラメと言う。標準和名のイシガレイは東京，三崎，浜松，富山県その他一般的に言われる名である。

238　サメガレイ　N(＋)

Dist. カラフト，千島，北日本，特に北海道に多い。長崎まで分布，朝鮮。

B. L.　４０cm

カワムキ（久慈浜），サメビラ（大洗・久慈浜・平潟）

皮を剝いで料理するのでカワムキと言う。体は頭とともに小さな骨質板が密布し，サメはだをなすのでサメビラと言う。ビラはヒラメ類の総称で，この魚は口が大きい方でヒラメ類である。標準和名のサメガレイは東京，富山県生地・魚津の名である。

239　ヤナギムシガレイ　NS(c)

Dist. 南部北海道～本州全沿岸，釜山～煙台

B. L.　３０cm

ペタペタ（大洗），ペタメ（久慈浜），ヤナギ（県下一円）

体形細長く薄く，手にもつとペタペタするのでペタペタ，ペタメの名あり。体の形が柳の葉のようであるのでヤナギと言う。ヤナギは東京，小名浜でも言われる。標準和名のヤナギムシガレイは東京の名。ムシガレイに似ていて，柳の葉を連想させるので，この名がある。

240　ババガレイ（ナメタガレイ）　N(＋)

Dist. カラフトおよび千島南部～駿河湾，博多，釜山～煙台

B. L.　３０cm

ナメタ（大洗・久慈浜・大津・平潟），ナメタガレイ（川尻），ダラリ（大洗・久慈浜・大津・平潟），ダルマ（久慈浜），ダルマガレイ（水戸），ダルマビラ（水戸）

体のうろこ細かく，粘液のため，体長滑らかな感じがするため，ナメタ，ナメタガレイと言う。青森県，岩手県，宮城県，千葉県，兵庫県，山口県でも，かく言う。ダラリはダラリと下がる，ダラリと垂れるのダラリで，この魚を手にとったときの感じを言ったものである。千葉県でも言う。ダルマ，ダルマガレイ，ダルマビラは体の感じが多少ダルマガレイに似たところがあるためである。東京魚市場でまれにダルマと言うことがある。標準和名のババガレイは北海道の名で，味は美味でなく，竹輪の材料になるので，かく言う。

241　シマウシノシタ（ツルマキ）　S(＋)

Dist. 新潟および茨城県以南の本邦各地。ペルシャ～New South Walesにわたるインド洋，太平洋

B. L.　30cm

シマウシカ（大洗），テダル（那珂湊），ヌレマラ（那珂湊），ヤマウシカ（那珂湊）

体の有眼側に美しいかっ色の横じまがあり，形が牛の舌に似るため，シマウシカと言う。これを手にもつとダラリとするのでダラリと言い，形がヌレマラにも似ているのでヌレマラと言う。ヤマウシカは意味不明。標準和名のシマウシノシタは東京の名，ツルマキは三崎の名，体側の横じまが蔓を巻いたように見えるので，かく言う。

242　クロウシノシタ　S(c)

Dist. 北海道以南～台湾，南中国

B. L.　30cm

アオウシノシタ（久慈浜），ウシカ（大洗・那珂湊），ウシノシタ（水戸・大洗），シタビラメ（大野村大同），ベラ（平潟），ベロシャ（水戸・久慈浜），ベロチョ（久慈浜），ネズクチ（水戸）

体の有眼側が紫がかった青黒色なので，アオウシノシタと言う。ウシカ，ウシノシタ，シタビラメ，ベラ，ベロシャ，ベロチョは牛の舌または舌に形が似ているため付けた名で，東京，三谷，舞鶴，和歌山県，高知，堺でもウシノシタと言う。ネズクチはこの魚の口が多少ねじれて見えるので，かく言う。標準和名のクロウシノシタは田中博士の命名による。クロウシノシタは次のアカシタビラメと共に建網により漁獲される。

243　アカシタビラメ　S(+)

Dist. 茨城県以南および新潟以南～台湾，中国

B. L.　30cm

アカウシカ（大洗），アカベロ（久慈浜），ウシカ（大洗・県下一円），ウシノシタ（大洗），クビラ（大洗），シタビラメ（大洗），ベロシャ（久慈浜）

ウシノシタ類中最も美味で，体色赤い。ウシノシタは堺でも言う。クビラは意味不明。標準和名のアカシタビラメは浜名湖および各地の名である。

244　エゾイソアイナメ　N(c)

Dist. 函館～鹿児島，銚子以北，機船底引で大量漁獲

B. L.　30cm

グゾウ（川尻），グゾウボ（大津），グゾボウ（大津），グッボ（川尻・大津），テダル（大洗），ノロマサンゴロウ（大洗・旭）

グゾウ，グゾウボ，グゾボウ，グッボ，ノロマサンゴロウはいずれも動作が鈍い魚の意，テダルはこの魚を手にもったときの感じをあらわしている。標準和名のエゾイソアイナメは称呼地不明。東北，北海道に多いアイナメのような魚という意である。

245　イソアイナメ（ヒゲダラ）　S(c)

Dist. 茨城県以南～長崎

B. L. 40cm

オヨネ（磯崎），グゾウ（那珂湊・久慈・大津），グゾウボ（大津），テダル（那珂湊），ヌレマラ（大洗・那珂湊），ヌレモウ（磯崎），ノロマ（大洗）

オヨネはオヨネキチベエの略で，動作の鈍いことを意味する。ヌレマラ，ヌレモウは同じ意味，テダルは手にもった感じをあらわす。標準和名のイソアイナメは愛知県の名で，多少形がアイナメに似たところがあるために，かく言う。

246 チゴダラ　S(+)

Dist. 茨城県，横浜，江の島，高知

B. L. 35cm

テダル（那珂湊），ノドグロ（平磯），ノロマ（水戸）

頭部下面が黒色なのでノドグロと言う。標準和名のチゴダラは称呼地不明。タラに似ているが大きくならないので，かく言う。

247 マダラ　N(cc)

Dist. 日本海，山陰以北および旧関東州，朝鮮，沿海州太平洋岸，茨城県以北，オホーツク海，ベーリング海～アメリカ・オレゴン州

B. L. 1m

タラ（県下一円），マダラ（河原子）

タラは意味不明。東京，北海道の名。マダラはタラ類中最も美味なることをあらわす。北陸，富山県，新潟県で言う。

248 アンコオ　NS(cc)

Dist. 北海道以南,本邦各地,支那海，フイリッピンをへてアフリカおよびメキシコ太平洋岸に至る

B. L. 1.5m

アンコウ（県下一円）

アンコウは東京，静岡県，高知，富山でも言われる。アンコウはアンゴ（安居）から来た名で，海底にじいとえさを待って動かずにいる習性から付けられた名である。機船底曳網で漁獲される。

249 ハナオコゼ　S(c)

Dist. 茨城県以南の各地沿岸

B. L. 20cm

モクズキ（那珂湊），ホトケノマイ（大野）

流水藻や海藻の繁茂するところに生息するので，モクズキと言う。ホトケノマイの意味不明，標準和名のハナオコゼは称呼地不明。

250 イザリウオ　S(c)

Dist. 茨城県以南，支那海

B. L.　４０*cm*

モクズキ（那珂湊）

モクズキとは前種と同様の性質上いわれている。標準和名のイザリウオは三崎の名。海底をはうのでこの名がある。

251　フサアンコウ　NS(+)

Dist. 鹿島灘，相模灘，駿河湾，熊野灘，高知沖，富山湾，鹿児島

B. L.　４０*cm*

アカアンコウ（久慈浜），オキアンコウ（波崎）

体が帯黄赤色をしているので，アカアンコウと言い，幾分沖に生息するのでオキアンコウと言う。高知県須崎でもアカアンコウと言う。標準和名のフサアンコウは田中博士の命名。次のアカグツと共に機船底曳網で漁獲される。

252　アカグツ　S(+)

Dist. 茨城県以南～朝鮮南部，支那海，東インド諸島，インド

B. L.　３０*cm*

アカアンコオ（大洗），アンコオ（大洗）

アカアンコオは東京，高知，伊豆宇佐見，御畳瀬，須崎の名で，体赤色なので，かく言う。標準和名のアカグツは赤靴の意で三崎，富山県の名である。

253　トゴットメバル　S(+)

Dist. 茨城県以南，長崎，釜山，台湾

B. L.　１８*cm*

サンノジ（川尻）

体側の暗かっ色の斑紋が三の字模様をしているのでサンノジと言う。標準和名のトゴットメバルは三崎の名で，その意味不明。

254　ユメカサゴ　S(c)

Dist. 深海性。茨城以南のやや深い海に多い。

B. L.　３０*cm*

ノドグロ（水戸）

鰓蓋（えらぶた）の内面が黒いのでノドグロと言う。標準和名のユメカサゴは田中博士の命名。その意味不明。機船底曳網で大量漁獲されることがある。

255　トオジン（ヒゲ）　S(+)

Dist. 茨城県以南～長崎

B. L.　４５*cm*

トオジン（那珂湊）

トオジンは三崎，那珂湊の名で，その頭部の形が冠をかぶり，ひげをつけた唐人を連想させるので，名付けられた名である。ヒゲは青木熊吉氏の命名で下顎に一個のヒゲがあることから名付けられた。

Ⅲ　方言の意味の分類

方言の意味から魚名を分類すると，次の１５類になる。

1　生　息　地

2　形　　態

(1)　全体の形態

(2)　部分の形態

3　色彩，光沢

4　紋　　様

5　脅　　威

6　生　　態

7　発音，毒棘，電気，油脂

8　成長度合

9　民間信仰，伝説，説話

10　ユーモラスな魚名または童語

11　　味

12　臭　　い

13　料　理　法

14　漁獲時の状態

15　献　　名

16　意味不明

1　生　息　地

生息水域，底質，地名や移殖魚の原産地，漁場位置などをあらわしている。

(1)　海・潟・藻場・磯・礁・沖

ウミハゼ，ウミタナゴ，ウミゴイ，カタウナギ，カタナギ，モサヨリ，ソイ，ネヨ，オキタナゴ，オキギス，オキアンコウ，ダイナンギンポ，ダイナンマツカワ，モクズキ

(2)　河川・沼・泉

カワヤツメ，カワシラス，カワドジョウ，カワガレイ，ヌマガレイ，シミズコ

(3)　山・田

ヤマドジョウ，タビラ，カンジキタナゴ，タモロコ，タンボメダカ

(4)　泥底・砂底・礫底

ドジョウ，スナヤツメ，スナモロコ，スナドジョウ，イシドジョウ，スナモグリ

(5) 多く生息する地名・原産地名

ヤマトシビレエイ，ミノワダゴイ，クルメサヨリ，カイズ，カエズ，エゾアイナメ，チョウセンブナ，ビワコブナ

(6) 漁場位置

エンタツノカオカクシ

2 形　　態

(1) 全体の形態

体全体を観察して，細い，円い，平らたいと直接その形を現わしたり，人名，人の状態，動物，植物，神仏名，道具，装身具，武器，飛行機，ロケットなどにたとえて，間接的にその形を現わしている。

a 細

サガ，サガボ，サイ，サイメ，サンマ，サイレンボ，サイランボ，セイランボ，サヨリ，サフグ，トガマス，クチボソ，アカヤガラ，アオヤガラ，センコ，メソ

b 円

マンダイ，マルソウダ，マルアジ，マンボウ，デンブク

c 平

ヒラブナ，ヒラソウダ，ヒラアジ，ヒラメ，シラメ，ヒラサバ，ベラメ，ヘラブナ，ヒラメジ，カジハバ，カジアバ，シイラ，シラマサ

d 人名・人態

金太郎，景清，婆，介，おかめ，姫，稚児，頭に盤台のせた飴売り，馬鹿，のろま（態度の鈍いもの）

キンタロウブナ，カゲキヨ，ババ，ババシラウオ，マスノスケ，スケ，スケマス，オカメブナ，オカメドジョウ，オカメザコ，チゴダラ，ヒメジ，ヨカヨカ，サボミヤ，ボントク，カスベ，カスベ，ダボ，ダボギス，オヨネキチベイ，ノロマサンゴロウ，オヨネ，ジンベイザメ，ジンベイサマ，ジンベイサン

e 動物：廿日鼠，鳶，鳥，牛，牛の舌，燕，金魚，雀

ハッカザメ，トビエイ，トリエイ，ウシマルタ，ウシカ，ウシノシタ，ツバメウオ，キンギョ

f 神・仏名：達磨，山の神，恵比須

ダルマ，ダルマガレイ，ヤマノカミ，エビスサガ，ネンブツザメ，ネンブツサガ

g 植物：柳，葉，わらしべ，ごぼう，木材，棟木，松皮

ヤナギ，ヤナギムシガレイ，ヤナギッパ，ヤナギゴロ，ヤナギザコ，ヤナギバヤ，ハオコゼ，スボ，ゴボウ，ゴボウイワシ，ボッカ，マルタ，マルダ，ウナギ，マツカサウオ

h 道具・装身具・武器・飛行機・ロケット・その他

ダイギリサガ，シュモクザメ，カネタタキ，ネンブツサガ，ネンブツザメ，ノコギリザメ，ダイギリ，コロザメ，カガミダイ，ツチウオ，カマツカ，メガネウナギ，ヨロイザメ，タチウオ，タチノイ，ヤリタナゴ，ウツボ，ツボ，ロッキイド，ロケットウオ，コロ，センコ，ロウソク，ハコフグ，イシフグ，イシダイ，ワラジザメ

i　体の部分：しりのあな，舌

ケツメドミッツ，ベラ，ベロチョ，シタビラメ，ケツメトタイジン，ウシノシタ，ベロシャ，アカベロ

(2)　部分の形態

体の部分の口，歯，眼，頭，背びれ，胸びれ，皮膚，うろこ，骨，肉，卵，尾などに注目して，その形態を直接現わしたり，事物にたとえて間接的に表現している。

a　歯：針・（杜松）

ハリサガ，タサムロリ，モロ，ムロアジ，ハガツオ，ハガツ，サバ

b　口：片口・口細・捩(ネジレ)口・左ぎっちょ・辰の口

カタクチイワシ，クチボソ，ネズクチ，ヒダリガッチョ，ヒダリ，ガッチョ，タツノクチ

c　口ひげ

ヒゲ，フサ

d　眼：うる眼・大眼・眼光り・眼高・眼鉢・赤眼・眼赤・眼張り・眼板・金眼・銀眼・盲目

ウルメイワシ，オオメマス，メヒカリ，メダカ，メタガ，メダッカ，メダッコ，メチャコ，メンザカ，メンパッコ，メザカ，メザコメ，メサッカ，メザッカ，メザッコ，メザッコメ，メバチ，バチ，アカメフグ，メアカフグ，メバル，メイタガレイ，キンメダイ，キンメ，ギンメ，ギンメダイ，メクラウナギ，メダイ，メテ，メボラ

e　頭：狐・でこ・鼻・のど・金頭・瘡(カサ)・顎・石持（耳石）・唐人・比丘尼・小判・わらじ・猫・鼠・辰・坊主・馬

キツネ，キツネハモ，デコ，ハナダイ，ハナテ，ハナコダイ，ノドグロ，デボダイ，カナド，カナガシラ，カサゴ，アゴナシ，ノドクサリ，イシモチ，トオジン，ビクニン，コバンザメ，ナガコバン，ワラジザメ，ネコザメ，ネコサガ，ネズミザメ，ダツ，ボウズハゼ，ボウズゴリ，ウマズラハギ

f　背びれ：包丁・長刀・旗・芭蕉

ホウチョウ，ナギナタ，ハタタテヌメリ，バショウカジキ

g　胸びれ：鬢(ビン)

ビンチョウ，ビンナガ

h　皮膚・うろこ：はだか・滑(ナメ)らか・針・石・石玉・さめ・松皮・鎧(ヨロイ)

ハダカメヒカリ，ハダカイワシ，ハダカイシモチ，ナベカ，ナメタ，ナメタガレイ，ナメラフグ，ハリセンボン，イシガレイ，イシダマゴ，サメガレイ，サメビラ，マツカワ，ヨロイメバル，ハリフグ，アブラッコ，マツカワブナ

i　骨：青骨

アホボネ

j　肉・卵

ニクブカ，マコ，マコビラ，マコガレイ

k　尾

オナガ，オナガザメ，オナガダイ

3　色彩・光沢

魚類の色彩，光沢は体全体か背側か腹側を現わし，生時よりも漁獲後の体色，光沢を現わすことが多い。その種類は青，黒，赤，銀，白，紫，墨，血，紅，錦，黄，金属色などである。

(1)　青

アオザメ，アオメエソ，アオウオ，アオ，アオモノ，サバフグ，アオ　ウシノシタ

(2)　黒

クロ，クロコ，クロボウズ，セグロ，セグロイワシ，コクレン，クロマグロ，クロタチカマス，クロモツ，クロアジモドキ，クロダイ，クロゴロ，クロフグ，クロメバル，クロメハル，クロゾイ，カラス，クロウシノシタ，エチオピア，ノドグロ

(3)　赤

アカエ，アカエイ，アカベ，アカベラ，ハラカ，アカハラ，アカマンボウ，アカアマダイ，アカムツ，アカダイ，オゴイ，ウグイ，アカメ，アカメバル，アコウダイ，アコウ，アカチョ，アカゲ，アカジ，アカジマコ，アカシタビラメ，アカウシカ，アカベロ，アカアンコウ

(4)　銀

ギンメ，ギンザメ，ギンアナゴ，ギンハモ，ギンコ，ギンボラ，ギングチ，ギンフグ，ギンブナ

(5)　白

シラオ，シラス，ハクレン，シログチ，シラッタイ，シラウオ，ヒウオ，シロウオ

(6)　紫

ムラサキシャチブリ

(7)　光沢

ヒカリコ

(8)　墨

スミヤキ

(9)　血

チビキ，チダイ

(10)　紅

ベン，ベンカスゴ

(11)　黄

キダイ，キホウボウ，キビラ，キマツ，キマツカワ，コガネフグ，キハダ

(12)　金属色

カナフグ，キンブナ

4　紋　　様

魚類の紋様は生時と死後で同じものあり，異なるものあり，ま幼魚と成魚と同じものあり，異なれるものがある。

その紋様は他の物にたとえ，星斑，虎斑，縞模様，黒点斑，灸点斑，石垣斑，小紋，鞍状斑，線状模様，網目状紋，あやめ模様，虫食斑，鷹の羽模様，蔓巻模様，夏羽織模様，黒点斑などとし，その状態を適確に現わしている。

(1) 星斑

ホシサガ，ホシザメ，ホシ，ココノホシギンザメ，ホシガレイ

(2) 虎斑

トラザメ，トラボウ，トラゴロ，トラフグ

(3) 縞

シマドジョウ，シマガツオ，シマダイ，シマイサキ，シマメグリ，シマオコゼ，シマハゼ，シマバッコ，シマウシノシタ，シマウシカ

(4) 黒点斑

マトダイ，ヤイト，イボダイ，ワタナベ

(5) 胡麻斑

ゴマサバ，ゴマゾイ

(6) 石垣斑

イシガキダイ

(7) 小紋

コモンダイ

(8) 鞍状斑

クラカケギス

(9) 線状模様

キュウセン，サンノジ

(10) 網目模様

アミメハギ

(11) あやめ模様

アヤメカサゴ

(12) 虫食斑

ムシ，ムシガレイ

(13) 鷹の羽模様

タカノハガレイ

(14) 蔓巻模様

ツルマキ

(15) 夏羽織（白点斑）

ナツバオリ

5 脅　　威

大変有毒であったり，形態がいかにも恐ろしげな場合に，他の物，雷，虎，鬼，毛虫，般若などのような人間にとって脅威を与えるものにたとえて表現する。

(1) 雷

ライギョ，ライヒ，ランギョ

(2) 虎

トラ，トラフグ

(3) 鬼

オニオコゼ，オニギス，オニゴンダイ

(4) 毛虫

ケムシカジカ

(5) 般若

オダハンニャ

6 生　　態

魚の生活を実際に観察して名付けられたもので，次のようなものがある。

(1) 食う

ハモノ

(2) 闘う

トウギョ，アユ，アイ

(3) はねる

ヒンカコ，ピンタコ，ピンピン，ピンザコ，ペンペン，ペンペンザコ，ペンペンザッコ，ペンペンザッコメ，ペンペンダコ，カエルウオ

(4) 飛ぶ

トビオ，トビウオ，トビヨ

(5) 浮く

ウキゴリ，ウキギ

(6) 餌とり

エバトリ

(7) 産卵

サクラオ，ハラフクレ，フウセンバッコ

(8) 向光性

ヒガイ

(9) 食性

ツチフキ，ソウギョ

(10) 行動

ハヤ，ダボ，イナ，イナコ，スバ，オサムライ，オヨネキチベイ

(11) 潜入

アナムグリ，スナムグリ，スナモグリ，アナゴ

(12) 群遊

ヨド，マンビキ

(13) 木付

ボクズキ

(14) 胎生

タナゴ

(15) 礁にすむ

スネアイ，スネヤ，イサキ，イザギ

(16) 網に刺される

ズブドオウシ

(17) 突端に生息

スズキ

(18) 底生

カジカ，カチカ，イコジ，アンコウ，イザリウオ

(19) 吸着

サメジラミ

(20) 流れ藻につくもの・　モクギョ，モクズキ，モサヨリ

7　発音，毒棘，電気，油脂

魚類には発音するものあり，毒棘で疼痛を与えるものあり，発電してしびれさすものあり，また体に脂肪分の多く含まれるものがある。

(1) 発音

ギギ，ギンギョ，ギンギロ，ギンギョメ，ハゲギギ，グチコ，グチ，ギュウギュウ，ホウボウ

(2) 毒棘

カワバチ，カババチ，ギバチ，ギンギョバチ，ギンバチ，ギギョバチ，ギュウバチ，ギンギュウバチ

(3) 発電

デンキ，ヤマトシビレエイ

(4) 油脂

アブラサガ，アブラハヤ，アブラソコムツ，アブラ，アブラメ，アブラガレイ
アブラッコ，アブラソノサメ，アブラムツ

8　成長度合

魚はその成長度合によって，特大，大，中，小に大体分けられる。

(1)　特大

マンネンドジョウ，タンゴブリ，トクダイタイ，ドタハゼ，ドラハゼ，ドタバゼ，トクダイヒラメ，ゴボウイワシ

(2)　大

オオバ，オオウオ，オオハナ，オオダイ，オオヒラメ，オオマツカワ，ハオイ

(3)　中

チュウバ，チュウセグロ，ニサイゴ，チュウブ，チュウボ，デンブク，サンバク，ワラサ，フッコ，チュウハナ，チュウダイ，チュウビラ，チュウビラメ

(4)　小

イワシコ，ドロメ，ヒシコ，オゴ，カサギ，フナッコ，ビリ，ダツ，ダッコ，メソコ，メソッコ，ハナダレ，ジャマ，オボコ，コマンジャク，チャンキ，ボラコ，メナ，ガンバ，メジ，メボ，ソウダンボ，チボ，ビンサバ，イナダ，ワカシ，セイゴ，セッパ，マメッパ，デキ，カスゴ，コダイ，チンチン，コアカジ，コバラ，コビラ，コビラメ，ソゲ

9　民間信仰，伝説，説話

(1)　民間信仰（大漁のしらせ）

エビスサガ，ツゲノカミノジンシロウ，ヤマノカミ，オコジ

(2)　伝説・説話

ジンベイザメ，コノシロ，雷魚，ワカサギ，公魚，トノサマウオ，鰉，ウグイ，ゲンゴロウブナ，カモチン，カムルチー，ワタナベ，エチオピヤ，シケダイ，サブロウ，オヨネキチベイ，ソウハチ

10　ユーモアのある魚名・童語

気楽に即興的に名付けたものが多く，昔の漁民は文芸的才能に勝れていたことがうかがえる。沿岸の潮間帯の小さな魚は子供がこれも即興的に名付ける童語がある。

(1)　ユーモアのある魚名

(a)　おしゃれ ── オシャラクブナ，オシャラクドンカ

(b)　鼻垂れ ── ハナダレ

(c)　愚鈍 ── オボッチョ，ダボハゼ，アンポン，バカゾワ，バカッチョ，サンタロコメ，フウテン，グゾウ，グゾウボ，クツボ，グゾボウ，ノロマ，ノロマサンゴロウ，オヨネ，オヨネキチベイ

(d)　近眼 ── チカメキントキ

(e)　小さい ── テッピリバッコ

(f)　やせている ── ホトトギス

(g)　その他 ── ケツメドダイジン，ヌレモウ，ヌレマラ

(2) 童語 ── トットコ，トットコメ，トテコッコ

11 味

接頭語としてマ（真），オ（雄），ホン（本当），アマ（甘）やハナミ（花見），タケノコ（竹の子）のようにその季節に美しいもの，味のよいものを形容詞につけたものは美味な魚であることを現わし，語頭にイシ（石），ミズ（水），クサ（草），クソ（糞），ションベン（小便），ババ（婆），ニガ（苦）をつけたもの，アズキ（小豆），ムギメシ（麦飯）のように不味な食物で現わされる名，我国では見世物のほか役にたたぬ動物ラクダ（駱駝），ネコサギ（猫避），エンキリ（縁切）のように不味なることを意味する名，自分の水域に産するのに，あたかも他の水域に産するもののように他の水域の名，チョウシ（銚子）とかカシマ（鹿島）とかの名を語頭につけた名などはすべて不味なることを意味する。

(1) 美味

(a) 真 ── マイワシ，マシラス，マアナゴ，マサバ，マアジ，マダイ，マハゼ，マフグ，マダラ，モウカ

(b) 雄 ── オカジキ

(c) 本当 ── ホンカジキ，ホンメヌケ，ホンサバ，ホンマコ

(d) 甘 ── アマダイ

(e) 花見・荀 ── ハナミザイ，タケノコメバル

(2) 不味.

(a) 石・水・草・糞・小便・婆・苦

イシモロコ，クサフグ，クサウオ・クソゴロ，ションベンブリ，ババガレイ，ニガタ，ニガフナ，ニガブナ，ニガッチョ，ニガベ

(b) 小豆・麦飯 ── アズキ，ムギメシ

(c) 駱駝 ── ラクダ

(d) 猫避・縁切 ── ネコサギ，エンキリ

(e) 他の土地の名称 ── チョウシタナゴ，カシマタナゴ

(f) 雌 ── メカジキ

12 臭い ── 臭いのするもの，ネションベン，ションベンブリ

13 料理・利用

料理するとき皮をむくとか，焼魚とし鶏の餌とするとか，この魚を煮ると肉が溶けて骨ばかりになるので利用価値がないとか，雑魚として利用するとか堅魚すなわちカツオブシとして利用するとかを現わす

(1) 料理法

カワハギ，カワムキ，ムキ

(2) 利用

ヤキ，ヤキハヤ，ガランチョ，ザコ，ザコメ，ザッコッコ，カツ，カツウ，カツオ

14 漁獲時の状態

カジキに突棒を刺したとき腕に地震のごとき震動が伝わってくるとか，深海魚を釣りあげたとき眼が飛出してぬけるとか，はげしく雷鳴するとき大漁するとか，すべて漁獲時の状態について表現したもの。

(1) 震動

ナイランボウ

(2) 眼抜

メヌケ，メヌキダイ，メヌキ

(3) 雷鳴

ハタハタ

15　献　　名

何かの記念に人名を語頭につけたもの

タカクラダツ，ジンベイザメ，ジンベイサマ，ワタナベ

16　意味 不明

魚名の意味が不明なもの

エドアブラザメ，ヨシキリザメ，ジョオヘイ，カスザメ，ハンブシ，レンテ，レンテイ，イセゴイ，コハダ，ニシン，カド，カドイワシ，イワシ，イワシコ，サッパ，サッパイ，サッペラ，サケ，マス，サケノヨ，シャケ，シャケンボ，アユ，アイ，ニギス，タナゴ，モツゴ，アイソ，ユサンウグイ，オイカワ，イカリ，フナ，テンジンヤマベ，コイ，ホトケドジョウ，ドガモ，ナマズ，ギュウタ，カヤコ，カヤンコ，ガヨコ，ハナカケザッコ，ボラ，カマス，シビ，ヒラメジ，スマ，ソウダ，バラムツ，カキハバ，カジヤバ，カジハバ，シイラ，カジアバ，シイラァ，シイラギ，シマガツオ，カイワリ，ヒラマサ，シラマサ，ブリ，カンパチ，ハタンボ，イシコチ，イシダイ，イシナギ，ニベ，アラ，キス，メジナ，タイ，ハマダイ，レンコダイ，コチ，タネバカ，ダイナンギンボ，タレバカ，ヨシノボリ，ハゼ，ボタハゼ，アゴハゼ，カンダイ，ウゴイ，ユゴイ，ネズッボ，アイゴ，ササノハベラ，カゴカキダイ，ヤマモ，ヤマンボウ，バラフグ，ホトケノマイ，ショウサイフグ，ヤナギメバル，ウスメバル，トゴットメバル，サンコウメヌケ，バラメヌケ，バラ，ガラッボ，カンネコ，ムラゾイ，ユメカサゴ，キチジ，クジメ，キクウズ，クッツ，クグウツ，クチウツ，ホッケ，アイナメ，アアナ，エエナメ，エイナ，イネゴチ，コチ，ヤライカジカ，キヌカジカ，カワバチコ，ネギノマル，ネギマラ，トトキ，ゴンゼイ，ゴンゼン，ササザラ，ガンゾウビラメ，ガンゾウ，フウジマ，　　カレイ，クビラ，タラ，トビアナゴ

本稿でとりあげた魚の種数は２５５種で南日本の魚１２７種，北日本の魚３７種，南日本にも北日本にも分布する魚９１種で，採集した魚方言数は８４０種類で，その魚方言は本県独自のものもあるが，多くは本県より南の地方より伝播したものである。

その命名に当っては魚自体の形態，生態その他の性質を直接表現したり，あるいは社会の事物，事象に関係づけて，その魚のもつ性質を如実に表現したものが多く，漁民の生活の息吹を生々しく感じ

させる。

一魚種の方言数は１～２９個になり，方言数と魚種数との関係は表１のとおりである。

表１　魚方言数と魚種数

魚方言数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	16	18	20	29
魚種数	88	39	38	28	12	13	12	4	3	4	2	1	1	1	1	1	1

魚方言数を８個以上もつ魚種名をあげれば表２のとおりになる。

魚方言数	魚種名
8	モツゴ，ウグイ，マグロ
9	オイカワ，サヨリ，ホウボウ
10	キバチ，チチブ，ヒラメ，クロウシノシタ
11	タナゴ，シラウオ
12	ウナギ，
13	フナ
16	シマドジョウ
18	チダイ
20	カタクチイワシ
29	メダカ

Ⅳ　魚類追加目録（和名・学名・方言）

分類番号	標準和名	学名	方言
2.55	ユメカサゴ	Helicolenus hilgendorf (S. et D.)	ノドグロ（水戸）
2.56	トオジン	Coelorhynchus Japonicus (T. et S.)	トオジン（那珂湊）

Ⅴ　文　献

1）渋沢敬三：（１９５８）日本魚名集覧　第1,2部　角川書店

2）　　：（１９５９）日本魚名の研究　角川書店

3）東海区水研外２０試験研究機関：（１９６６）モジャコ採捕のブリ資源に及ぼす影響に関する研究報告書　東海区水産研究所

4）藤本　武・浅野長雄：（１９６５）茨城県産魚類の方言について（第１報）　昭和３８年度　茨城県水試，試報

浅野長雄，原田和民，藤本　武，丹下　孚：（１９５５）茨城県海産動物相に関する研究－Ⅱ，魚類相について，昭和２７年度，茨城県水産試験場，試験報告